

様式第1号

聖和学園短期大学
の教員の免許状授与の所要資格
を得させるための課程認定申請書

平成27年3月26日

文部科学大臣 下村 博文 殿

学校法人 聖和学園

理事長 鈴木 繁 雄



このたび、教育職員免許法別表第1備考第5号イ及び同法施行規則第21条の規定により、教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程認定を受けたいので、関係書類を添えて申請します。なお、認定の上は、確実に申請に係る計画を履行します。

認定を受けようとする大学の課程の概要

大学名	聖和学園短期大学(学科等の課程)								
設置者名	学校法人 聖和学園								
大学の位置	宮城県仙台市泉区南中山5丁目5番2号								
学部名	学科等名	入学定員	設置年度	認定を受けようとする 免許状の種類 (免許教科・領域)	現在認定を受けている免許状の種類(免許教科・領域) (認定年度)				
					幼・小	中・高	特支	養教・栄教	
	保育福祉学科 保育専攻	—	平成19年度		幼二種免 (平成11年度)				
	保育学科	90	平成28年度	幼二種免					
入学定員合計		90							
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・保育学科は、平成28年度設置のため、現在、設置届出予定である。 ・保育福祉学科保育専攻は、保育学科に改組し、学科名を変更するため取り下げ届提出予定。 								

様式第2号 (幼・教科に関する科目)

認定を受けようとする学部学科等の教育課程及び教員組織 (幼・教科に関する科目)										
認定を受けようとする学部・学科等	保育学科	入学定員	1. 免許状取得に必要な最低修得単位数				2. 学 位		3. 学位又は学科の分野	
		90	・教科に関する科目 4単位				短期大学士 (保育学)		教育学・保育学関係	
認定を受けようとする免許状の種類	免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目				専任教員				備考
		授業科目	単位数		共通開設		教授	准教授	講師	
必修	選択		学校種等	学科等						
幼二種免	国 語	国語		2						
	算 数									
	生 活	生活		2						
	音 楽	音楽		2			松村万里子	佐藤万利子		
	図画工作	図画工作Ⅰ		1						
		図画工作Ⅱ		1			伊藤 純子			
	体 育	幼児体育Ⅰ		1				石森真由子		
幼児体育Ⅱ			1				(石森真由子)			
	これら科目に含まれる内容を合わせた内容に係る科目その他これら科目に準ずる内容の科目									
●単位数		・教員の免許状取得のための必修科目 (選択必修科目の単位数を含む)				6単位		●専任教員数 (合計)		4人
		・教員の免許状取得のための選択科目				4単位		●必要専任教員数		4人

様式第2号（66条の6に定める科目）

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
認定を受けようとする 学部・学科等	保育学科	入学定員 90	学 位 短期大学士(保育学)	学位又は学科の分野 教育学・保育学関係	
免許法施行規則に定める 科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目			備 考
		授業科目	単位数		
				必修	選択
日本国憲法	2	暮らしの中の憲法	2		
体育	2	体育理論	1		
		健康スポーツ	1		
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーション	2		
情報機器の操作	2	情報処理演習Ⅰ	1		
		情報処理演習Ⅱ	1		

様式第2号（幼・教職に関する科目）

認定を受けようとする学部学科等の教育課程及び教員組織（幼・教職に関する科目）													
認定を受けようとする学部・学科等	保育学科	保育専攻	入学定員 90	1. 免許状取得に必要な最低修得単位数 ・教職に関する科目 27単位				2. 学位 短期大学士 (保育学)	3. 学位又は学科の分野 教育学・保育学関係				
認定を受けようとする免許状の種類	免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目				専任教員				備考	
	科目	各科目に含める必要事項	単位数	授業科目	単位数		共通開設		教授	准教授	講師		助教
					必修	選択	学校種等	学科等					
幼二種免	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割	2	保育者論	2			木村 昭代 (小野真喜子) (加藤 和子)	(飯島 典子)	中島 恵 (中島 恵)		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項を含む	
		・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等		保育学講座	1								
	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	4	教育原理	2				(飯島 典子)				
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		保育の心理学Ⅰ	2								
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項											
	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	12	保育内容総論	1			(小野真喜子)	(飯島 典子)	(中島 恵)			
		・保育内容の指導法		保育課程論	2			(小野真喜子)					
				健康（領域「健康」指導法）	1			(加藤 和子)					
				人間関係（領域「人間関係」指導法）	1			(小野真喜子)					
				環境（領域「環境」指導法）	1			(飯島 典子)					
言葉（領域「言葉」指導法）				1			(飯島 典子)						
音楽表現（領域「表現A」指導法）				1			(小野真喜子)						
造形表現（領域「表現B」指導法）	1												
・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育指導法	2			(小野真喜子)	(飯島 典子)							
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・幼児理解の理論及び方法	2	教育相談（幼児理解を含む）	2									
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法												
教育実習		教育実習Ⅰ	1			(小野真喜子) (加藤 和子)	(飯島 典子)	(中島 恵)					
		教育実習Ⅱ	4			(小野真喜子) (加藤 和子)	(飯島 典子)	(中島 恵)					
教職実践演習		2	保育・教職実践演習(幼稚園)	2			(小野真喜子) (加藤 和子)	(飯島 典子)	(中島 恵)	事前・事後指導1単位を含む。			
●単位数	・教員の免許状取得のための必修科目（選択必修科目の単位数を含む）			28単位				●専任教員数（合計）				5人	
	・教員の免許状取得のための選択科目			0単位				●必要専任教員数				4人	

※専任教員欄の網掛けは消去しないこと。

シラバス

授業科目名： 国語	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：2単位	担当教員名：関根俊二
			担当形態：単独
科目	教科に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	・国語		
授業の到達目標及びテーマ			
①国語科の特質と意義について理解を深める。			
②幼児教育における領域「言葉」指導法と国語科の関連性を説明することができるようになる。			
③国語科との接続をねらいとした指導計画と言語活動を探求することができる。			
授業の概要			
<p>小学校1年生の「国語科」と幼稚園教育との連携指導の在り方に付いて学ぶ。小学校学習指導要領の小学校1年生の「国語科」の目標と幼稚園教育における領域「言葉」のねらいとの関連性、系統性について理解するとともに、「言葉の発達の連続性」という観点から指導法について理解する。小学校教育との接続を図る重要な科目であることから、幼児教育における「言語活動の充実」、基盤となる「体験活動の充実」などをテーマに指導計画の作成、模擬授業を取り入れ実践的な指導を行う。</p>			
第1回： オリエンテーション 第2回： 幼児教育と小学校教育の連携・接続について 第3回： 幼稚園教育と国語科 第4回： 領域「言葉」指導法と日常生活における国語 第5回： 小学校学習指導要領「国語科」の教科目標および内容 第6回： 国語科1年生の到達目標と指導内容 第7回： 言葉の発達の連続性：幼稚園の言語活動と小学校の言語活動 第8回： 「話すこと・聞くこと」領域の学習指導と指導計画 第9回： 「読むこと」領域の学習指導と指導計画 第10回： 「伝統的な言語文化と国語の特質」の学習指導と指導計画 第11回： 国語科との連携：幼稚園教育における自然体験の重要性 第12回： 国語科との連携：幼稚園教育における社会体験の重要性 第13回： 国語的理解と教材研究：絵本・紙芝居 第14回： 国語的理解と教材研究：協同的活動 第15回： 模擬授業とまとめ			
テキスト 「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「小学校学習指導要領解説 国語編」文部科学省			
参考書 柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容「言葉」』ミネルヴァ書房			
学生に対する評価 発表（50％）・提出物等での課題達成度（50％）			

授業科目名： 生活	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位	担当教員名：加藤 和子
			担当形態：単独
科目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・生活		
授業の到達目標及びテーマ			
①生活科の特質と意義について理解を深める。			
②幼児教育における体験の重要性と生活科の関連性を説明することができるようになる。			
③生活科の実際について理解を深める。			
④環境教育と生活科の実際を、事例やフィールドワークをもとに理解することができるようになる。			
授業の概要			
平成元年に新設された小学校低学年における「生活科」について、その特質と意義を学ぶ。子どもたちが生活を通して、地域社会、自然と関わりながら体験的に学ぶことの重要性を理解し、その学びを支援する方法について学ぶ。小学校教育との接続を図る重要な科目であり、幼児教育における体験活動と「生活科」の連携指導の在り方について学ぶ。			
第1回：	オリエンテーション		
第2回：	生活科ができるまで ～その経緯～		
第3回：	生活科の学習内容		
第4回：	生活科の意義と特質		
第5回：	生活科の指導計画 ～学びを支援するために何が大切か～		
第6回：	実践例 小学校における生活科の実例		
第7回：	体験活動について ～身近な地域社会と自然を学ぶ～		
第8回：	フィールドワークの体験を通して生活科の意義と特質を学ぶ		
第9回：	子どもの育ちと生活科		
第10回：	幼児教育と生活科		
第11回：	環境教育について		
第12回：	生活技能について		
第13回：	生活習慣について		
第14回：	生活科の課題		
第15回：	まとめ		
テキスト	「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領解説 生活編」(文部科学省)		
参考書	「幼稚園教育要領解説」文部科学省 柴田正行・田中泰行 編 保育内容「環境」 ミネルヴァ書房		
学生に対する評価			
試験 (70%) レポート (30%)			

授業科目名： 音 楽	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松村万里子 佐藤万利子		
			担当形態：オムニバス		
科 目	教科に関する科目				
施行規則に定める 科目区分	・音楽				
授業の到達目標及びテーマ					
<p>① 音楽の基礎理論を理解し、子どもの発達と音楽表現に必要な知識と技術を指導する。</p> <p>② 子どものうたを歌い、楽器を演奏し子ども達の前で表現できる力を養う。</p> <p>③ コードネームを理解し、簡単なうたに伴奏付けをしながら音楽の技術を高める。</p> <p>④ 子どもと一緒にピアノを弾きながら歌う。(幼稚園で実際に模擬体験をする)</p>					
授業の概要					
<p>保育者に必要な基礎技能の一つとして音楽がある。基礎的な音楽力を身につけるために楽典を学び、それを土台にしてリズム練習、伴奏付けなどを経験する。また、毎回の授業で可能な限り子どものうたを数多く歌い、子どものうたのあゆみや日本の四季を学びつつレパートリーを広げるようにする。</p>					
1	オリエンテーション	(佐藤)	16	オリエンテーション	(佐藤)
2	五線譜と音部記号	(佐藤)	17	音符の読み方(固定ド唱法)	(佐藤)
3	音の名前(日本音名)	(佐藤)	18	音符の読み方(移動ド唱法)	(佐藤)
4	音の名前(イタリア音名)	(佐藤)	19	音程	(佐藤)
5	音の名前(ドイツ音名)	(佐藤)	20	音階と調(長音階)	(佐藤)
6	音の名前(英米音名)	(佐藤)	21	音階と調(短音階)	(松村)
7	音符と休符	(佐藤)	22	音階と調(調号)	(松村)
8	リズム	(佐藤)	23	音階を弾く(♯系を弾く)	(松村)
9	拍子の種類	(佐藤)	24	音階を弾く(♭系を弾く)	(松村)
10	ボディーパーカッション	(佐藤)	25	和音とコードネーム(3和音と属7和音)	(松村)
11	全音と半音	(佐藤)	26	和音とコードネーム(コードネーム種類)	(松村)
12	変化記号	(佐藤)	27	和音とコードネーム(和音進行)	(松村)
13	標語と記号(速度・強弱)	(佐藤)	28	幼稚園・保育所の子どもの童謡発表会	(松村)
14	標語と記号(曲想・奏法)	(佐藤)	29	幼児の音楽教育の変遷	(松村)
15	幼児の表現活動とその指導について	(佐藤)	30	唱歌遊戯から童謡の誕生	(松村)
テキスト					
<p>幼児表現教育研究会「幼児のための表現指導—うたって、つくって、あそぼう」音楽の友社</p> <p>甲斐彰「楽譜が読める・弾けるSTEP20」音楽の友社</p>					
参考書・参考資料等					
<p>吉野幸男「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」ドレミ楽譜社</p> <p>「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」文部科学省</p> <p>「保育所保育指針」「保育所保育指針解説」厚生労働省</p>					
学生に対する評価					
発表40%、テスト40%、レポート20%					

シラバス

授業科目名： 図画工作Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：新妻 悦子 担当形態：単独
科 目	教科に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	・図画工作		
授業の到達目標及びテーマ ① 造形の基礎技術と知識を理解し、造形活動の楽しさを習得、感性を豊かにする。 ② 造形表現の特質と発達を理解する。 ③ 幼児期の造形活動の意義を考察し、安全に制作する環境を整えることが出来る。 ④ 子どもの表現活動を適切に援助し、準備や展示、保管などを考える事が出来る。			
授業の概要 子どもの全身は感覚器官であり、生きる力の土台となる感覚や感性を培う造形表現活動は重要である事を理解し、自然素材を使っての制作や手仕事を試みる。主に平面造形を取り上げ、結果主義に陥らず表現する喜びを味わう。幼児期の造形表現の特質と発達を体験し理解する。			
第1回：	オリエンテーション	人間と造形	ドリームキャッチャー
第2回：	造形基礎Ⅰ	点と線	線の会話
第3回：	造形基礎Ⅱ	光と影	卵のデッサン
第4回：	造形基礎Ⅲ	イラストレーション	鳥獣戯画
第5回：	色彩基礎Ⅰ	色の体験	水彩画
第6回：	色彩基礎Ⅱ	色彩心理・色彩論	
第7回：	絵本製作	絵本作り	
第8回：	絵本作品・発表・鑑賞		
第9回：	版画基礎Ⅰ	版画の種類と技法	
第10回：	版画基礎Ⅱ	野菜スタンプ	
第11回：	平面技法Ⅰ	ストリング・ドゥルーピング・ブローイング・デカルコマニー	
第12回：	平面技法Ⅱ	フロッタージュ	
第13回：	平面技法Ⅲ	スクラッチ	
第14回：	幼児造形表現の特質と発達		
第15回：	まとめ 造形活動の意義		
テキスト	楨栄子『保育をひらく造形表現』萌文書林		
参考書・参考資料等 プリント配布 「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「保育所保育指針」「保育所保育指針解説」厚生労働省			
学生に対する評価 平常点 50% 課題制作 50%			

シラバス

授業科目名： 図画工作Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：伊藤 純子 担当形態：単独																																																												
科 目	教科に関する科目																																																														
施行規則に定める 科目区分	・図画工作																																																														
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>① 立体造形の基礎的方法論と実践力を養う。</p> <p>② 保育者としての創造性や感性といった資質を豊かにする。</p> <p>③ 保育実践に必要な様々な教材や素材、またその特性を理解する。</p> <p>④ 子どもの発達や成長に即した表現活動への実践や応用を理解する。</p>																																																															
<p>授業の概要</p> <p>造形活動は、具体的にものに触れる体験を通して心身の機能を発達させ、より豊かな感性と創造力を育む。本科目では、表現の楽しみを知りながら、主に立体造形の基礎を学ぶ中で、子どもが積極的に楽しんで制作することができるような表現方法と教材、プログラムを検討および実践し、保育者としての資質を深めることを目的とする。</p>																																																															
<table border="0"> <tr> <td>第1回：オリエンテーション</td> <td colspan="3">教育・保育課程における図画工作の意義</td> </tr> <tr> <td>第2回：粘土による造形①</td> <td colspan="3">水粘土</td> </tr> <tr> <td>第3回：粘土による造形②</td> <td colspan="3">紙粘土</td> </tr> <tr> <td>第4回：粘土による造形③</td> <td colspan="3">小麦粉粘土</td> </tr> <tr> <td>第5回：自然と遊ぶ①</td> <td colspan="3">飛ばして遊ぶ</td> </tr> <tr> <td>第6回：自然と遊ぶ②</td> <td colspan="3">投げて遊ぶ</td> </tr> <tr> <td>第7回：自然と遊ぶ③</td> <td colspan="3">感じて遊ぶ</td> </tr> <tr> <td>第8回：教材研究①</td> <td>身近な素材から工夫 1</td> <td colspan="2">ビニール袋</td> </tr> <tr> <td>第9回：教材研究②</td> <td>身近な素材から工夫 2</td> <td colspan="2">新聞紙</td> </tr> <tr> <td>第10回：教材研究③</td> <td>身近な素材から工夫 3</td> <td colspan="2">牛乳パック</td> </tr> <tr> <td>第11回：教材研究④</td> <td>身近な素材から工夫 4</td> <td colspan="2">ストロー</td> </tr> <tr> <td>第12回：教材研究⑤</td> <td>身近な素材から工夫 5</td> <td colspan="2">紙皿</td> </tr> <tr> <td>第13回：総合表現活動①</td> <td>グループワーク</td> <td colspan="2">立案、教材研究</td> </tr> <tr> <td>第14回：総合表現活動②</td> <td>グループワーク</td> <td colspan="2">活動実践・発表</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>				第1回：オリエンテーション	教育・保育課程における図画工作の意義			第2回：粘土による造形①	水粘土			第3回：粘土による造形②	紙粘土			第4回：粘土による造形③	小麦粉粘土			第5回：自然と遊ぶ①	飛ばして遊ぶ			第6回：自然と遊ぶ②	投げて遊ぶ			第7回：自然と遊ぶ③	感じて遊ぶ			第8回：教材研究①	身近な素材から工夫 1	ビニール袋		第9回：教材研究②	身近な素材から工夫 2	新聞紙		第10回：教材研究③	身近な素材から工夫 3	牛乳パック		第11回：教材研究④	身近な素材から工夫 4	ストロー		第12回：教材研究⑤	身近な素材から工夫 5	紙皿		第13回：総合表現活動①	グループワーク	立案、教材研究		第14回：総合表現活動②	グループワーク	活動実践・発表		第15回：まとめ			
第1回：オリエンテーション	教育・保育課程における図画工作の意義																																																														
第2回：粘土による造形①	水粘土																																																														
第3回：粘土による造形②	紙粘土																																																														
第4回：粘土による造形③	小麦粉粘土																																																														
第5回：自然と遊ぶ①	飛ばして遊ぶ																																																														
第6回：自然と遊ぶ②	投げて遊ぶ																																																														
第7回：自然と遊ぶ③	感じて遊ぶ																																																														
第8回：教材研究①	身近な素材から工夫 1	ビニール袋																																																													
第9回：教材研究②	身近な素材から工夫 2	新聞紙																																																													
第10回：教材研究③	身近な素材から工夫 3	牛乳パック																																																													
第11回：教材研究④	身近な素材から工夫 4	ストロー																																																													
第12回：教材研究⑤	身近な素材から工夫 5	紙皿																																																													
第13回：総合表現活動①	グループワーク	立案、教材研究																																																													
第14回：総合表現活動②	グループワーク	活動実践・発表																																																													
第15回：まとめ																																																															
<p>テキスト</p> <p>楨英子「保育をひらく造形表現」萌文書林、配布資料</p>																																																															
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「保育所保育指針」「保育所保育指針解説」厚生労働省</p>																																																															
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点30% 課題作品・提出物70%</p>																																																															

シラバス

授業科目名： 幼児体育Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位	担当教員名：石森 真由子 担当形態：単独
科目	教科に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	・体育		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>① 体を動かすことの楽しさや面白さ、達成感を体験する。</p> <p>② 子どもにとっての運動・体育の意味や考え方を理解する。</p> <p>③ 運動遊びの内容や方法について理解を深める。</p>			
授業の概要			
<p>運動遊びを通して、体を動かすことの楽しさや面白さ、達成感などを体験する。子どもにとって体育・運動はどのような意味や意義を有するのか、実技を通してその都度解説する。また、コーディネーショントレーニングの要素も取り入れながら、運動教育の考え方、内容、方法等について学習する。</p>			
<p>第1回： オリエンテーション、パラバルーン</p> <p>第2回： コーディネーショントレーニング</p> <p>第3回： ダンス・体操①（子どものダンス・体操とは）</p> <p>第4回： 遊具を使った遊び①（ビニール）</p> <p>第5回： 遊具を使った遊び②（サイコロなど）</p> <p>第6回： 遊具を使った遊び③（フラフープ）</p> <p>第7回： 遊具を使った遊び④（鉢巻など）</p> <p>第8回： ダンス・体操②（表現のポイント）</p> <p>第9回： 表現運動</p> <p>第10回： 遊具を使った遊び⑤（オーボール）</p> <p>第11回： 遊具を使った遊び⑥（ライン）</p> <p>第12回： 遊具を使った遊び⑦（ソフトフリスビーなど）</p> <p>第13回： ダンス・体操③（発表）</p> <p>第14回： プール遊び、水遊び①（全体の活動の流れ）</p> <p>第15回： プール遊び、水遊び②（手作り遊具等の活用、実践方法の計画）</p> <p style="text-align: right;">* 天候や人数、理解度によって変更することがある</p>			
テキスト	必要に応じて資料配付		
参考書	<p>丸山富雄 他「幼児・児童の運動教育—理論と実際—」不味堂出版</p> <p>「幼児期運動指針」「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」文部科学省</p> <p>「保育所保育指針」「保育所保育指針解説書」厚生労働省</p> <p>「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省</p>		
学生に対する評価			
授業への参加・活動状況・実技（50%）、記録・課題・発表（50%）			

シラバス

授業科目名： 幼児体育Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位	担当教員名：石森 真由子 担当形態：単独
科 目	教科に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	・体育		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>① 用具や音楽を活用し、創意工夫しながら身体を動かすことを楽しむ。</p> <p>② 指導する際の配慮や準備の重要性を理解できる。</p> <p>③ 発表、意見交換を通して客観的に判断する力を身に付ける。</p>			
授業の概要			
<p>幼児体育Ⅰでの運動遊びの活動を発展させ、用具や音楽を活用し工夫する楽しさや身体を動かす楽しさの理解を深める。各々が子どものための運動遊びの必要性や運動指導・方法について学び考える。また、実際に学生同士で発表等を行い、お互いに意見を出し合い評価することを通して、客観的に捉える力とともに共感する心を養う。</p>			
<p>第1回： オリエンテーション、コーディネーショントレーニング</p> <p>第2回： 遊具を使った遊び①（新聞紙）</p> <p>第3回： 遊具を使った遊び②（新聞紙）</p> <p>第4回： ダンス・体操①（季節を考慮する）</p> <p>第5回： 遊具を使った遊び③（ゴム）</p> <p>第6回： 遊具を使った遊び④（マット）</p> <p>第7回： 遊具を使った遊び⑤（平均台）</p> <p>第8回： 遊具を使った遊び⑥（跳び箱）</p> <p>第9回： 遊具を使った遊び⑦（縄遊び）</p> <p>第10回： ダンス・体操②（発表）、伝承あそび</p> <p>第11回： 伝承あそび、おにごっこ</p> <p>第12回： グループワーク①（資料から読み取る運動遊びの企画・実践）</p> <p>第13回： グループワーク②（運動遊びの企画・実践、手作り遊具など）</p> <p>第14回： グループワーク③（運動会を見通した運動遊びの実践）</p> <p>第15回： まとめ *天候や人数、内容等によって変更することがある</p>			
テキスト	必要に応じて資料配付		
参考書	<p>丸山富雄 他「幼児・児童の運動教育—理論と実際—」不味堂出版</p> <p>「幼児期運動指針」「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」文部科学省</p> <p>「保育所保育指針」「保育所保育指針解説書」厚生労働省</p> <p>「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省</p>		
学生に対する評価			
授業への参加状況・実技（50%）、記録・課題・発表（50%）			

シラバス

授業科目名： 暮らしの中の憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：米谷 光正
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	日本国憲法		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>ここ数年来、諸々の憲法改正草案が見られ、憲法の変改期に入ったかの感がある。</p> <p>我々の生活と憲法の関係で理解できるようにしていきたい。</p>			
授業の概要			
<p>従来からの基本的理念・原則を、憲法制定史から理解するとともに、外国人の参政権、国会議員の選出方法、内閣総理大臣の公選制、憲法改正の限界の意味、憲法の将来等について理解していく。</p> <p>また、国家主権（領土・領海・領空）や天皇制についても考えてみたい。</p>			
<p>第1回： 国家の概念・構成要素・形態</p> <p>第2回： 憲法史 日本国憲法の成立</p> <p>第3回： 憲法の構造と基本原理Ⅰ 国民主権</p> <p>第4回： 憲法の構造と基本原理Ⅱ 人権尊重</p> <p>第5回： 憲法の構造と基本原理Ⅲ 永久平和</p> <p>第6回： 権力分立制</p> <p>第7回： 天皇制</p> <p>第8回： 国民の権利・義務</p> <p>第9回： 平等権・自由権・社会権</p> <p>第10回： 国務請求権・参政権</p> <p>第11回： 国会の活動・機能</p> <p>第12回： 内閣の性格・組織</p> <p>第13回： 内閣の機能・責任</p> <p>第14回： 司法制度</p> <p>第15回： 憲法改正</p>			
テキスト			
和知賢太郎『憲法講義』南窓社			
参考書			
六法（いずれの出版社のものでもよい）は必ず持参すること。			
学生に対する評価			
試験 70% 平常点 30%			

シラバス

授業科目名： 体育理論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位	担当教員名：金野 麻衣 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	体育		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>① 体育理論の様々な知識を理解する。</p> <p>② 運動の合理的な実践や健康維持のための能力・資質を高める。</p> <p>③ 自分自身のライフスタイルの再構築をする。</p> <p>④ 自分自身の健康管理のみならず周囲の人のサポートするための知識を育む。</p>			
授業の概要			
<p>本講義においては、体育の理論的知識の習得および心身の健康・体力維持増進のための知識を学ぶことで、生涯にわたって継続的にスポーツを親しむための資質や能力を高めることを目的とする。</p>			
<p>第1回： ガイダンス：健康と体力</p> <p>第2回： スポーツと心身の健康管理</p> <p>第3回： 運動とトレーニング</p> <p>第4回： 運動と安全（特殊環境下での対策と対応）</p> <p>第5回： 運動と食生活（コンディショニングと栄養）</p> <p>第6回： 運動とからだの発育発達</p> <p>第7回： 生涯スポーツ</p> <p>第8回： まとめ・定期考査</p>			
テキスト			
プリント資料配布			
参考書 健康運動実践指導者テキスト、公認スポーツ指導者養成テキスト 図解 スポーツトレーニングの基礎理論			
学生に対する評価			
筆記試験・レポート（70%）、平常点（30%）			
学生に対する評価			
定期試験 80% レポート 10% 平常点 10%			

シラバス

授業科目名： 健康スポーツ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位	担当教員名：金野 麻衣 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	体育		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>① 様々なスポーツの技術、ルール、マナーを理解する。</p> <p>② 基本技術を習得し、試合を通して総合的な運動技能を高める。</p> <p>③ 生涯にわたって、スポーツを楽しむための意欲・資質を高める。</p> <p>④ スポーツを通して、人間関係の向上を図る。</p>			
授業の概要			
<p>本講義においては、健康づくりのためのスポーツ・身体活動の実践について解説し、実技を通して、スポーツの基本的な技術、ルール、マナーを身につけることでスポーツに対する理解を深めることを目的とする。また、様々な運動の実践を通して、総合的な運動技能を高め、楽しさや喜び、悔しさを味わうことで、生涯にわたって継続的にスポーツに親しむ能力や意欲、資質を高めることをねらいとする。</p>			
<p>第1回： ガイダンス、運動の準備</p> <p>第2回： レクリエーション・ニュースポーツ（1）コミュニケーションゲームと運動の準備</p> <p>第3回： レクリエーション・ニュースポーツ（2）コミュニケーションゲームと運動の準備</p> <p>第4回： キックベースボール（1）ルールの説明と基本技術の練習</p> <p>第5回： キックベースボール（2）応用技術の練習と試合</p> <p>第6回： キックベースボール（3）試合</p> <p>第7回： バレーボール（1）ルールの説明と基本技術の練習</p> <p>第8回： バレーボール（2）応用技術の練習と試合</p> <p>第9回： バレーボール（3）試合</p> <p>第10回： バスケットボール（1）ルールの説明と基本技術の練習</p> <p>第11回： バスケットボール（2）応用技術の練習と試合</p> <p>第12回： バスケットボール（3）試合</p> <p>第13回： 卓球・バドミントン（1）ルールの説明と基本技術の練習</p> <p>第14回： 卓球・バドミントン（2）応用技術の練習と試合</p> <p>第15回： 卓球・バドミントン（3）試合</p>			
テキスト			
なし			
参考書			
なし			
学生に対する評価			
レポート（30%）、授業態度を含む平常点（70%）			

シラバス

授業科目名： 英語コミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：川辺 博 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>① 英会話の基本表現を理解し、使うことができるようになる。</p> <p>② 英語で質問したり、自分のことを英語で説明できるようにする。</p> <p>③ 英語学習をとおして異文化や外国語全般への関心を深める。</p>			
授業の概要			
<p>英会話で使用頻度の高い表現に限定して、発音練習と置き換え練習を行う。並行して、基本的な文法事項を確認する。会話形式の練習では、単に声を出すだけでなく、セリフに感情をこめて「演じて」ほしい。教科書に示されたサンプルから発展して「同じ場面で自分ならこう言う」という応用力・想像力が求められる。</p>			
<p>第1回： ガイダンス</p> <p>第2回： 基本フレーズ (1) 「感謝・祝福」～「承諾・拒否」</p> <p>第3回： 基本フレーズ (2) 「問い合わせ・確認」～「留保・遠慮」</p> <p>第4回： 基本フレーズ (3) 「予定・計画」～「喜ぶ・楽しい」</p> <p>第5回： 基本フレーズ (4) 「悲しい・弔意」～「仮主語の it」</p> <p>第6回： 基本フレーズ (5) 「命令」～「Yes/No 疑問文」</p> <p>第7回： 基本フレーズ (6) 「When/Where の疑問文」～「比較」</p> <p>第8回： ミニ会話 (1) 「人に会う」「電話をかける」</p> <p>第9回： ミニ会話 (2) 「約束をする」「レストランで」</p> <p>第10回： ミニ会話 (3) 「パーティー」「機内・空港で」</p> <p>第11回： ミニ会話 (4) 「ホテルで」「ショッピング」</p> <p>第12回： ミニ会話 (5) 「街を歩く」「旅行のトラブル」</p> <p>第13回： ミニ会話 (6) 「世間話をする」「お医者さんにかかる」</p> <p>第14回： ミニ会話 (7) 「オフィスで」「パソコン・ネットライフ」</p> <p>第15回： ミニ会話 (8) 「日本紹介」</p>			
テキスト			
妻鳥千鶴子『ゼロからスタート 英会話』Jリサーチ出版			
参考書 特に指定しない。			
学生に対する評価			
平常点 (主に、授業参加の積極さ) 30 % 小テスト 30 % 期末試験 40 %			

シラバス

授業科目名： 情報処理演習 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：阿部 よし江 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	情報機器の操作		
授業の到達目標及びテーマ ①Word2010 の各種機能について理解する。 ②完成例を参考に、自分の保育観を取り入れた文書ができるようになる。 ③他の保育専門科目との関連性を理解する。			
授業の概要 保育実務に役立つツールとしてのコンピュータを総合的に活用する方法を学ぶ。演習 I においては、ビジネスソフト Word2010 の基本的な操作方法を学習する。演習問題にて保育的内容の文書を繰り返し作成し、Word の機能が幼児教育の現場でどのように活用できるかを学ぶ。			
第 1 回： 起動と終了、アプリケーションの起動操作など 第 2 回： ファイルの管理（フォルダの作成、開く・保存操作など） 第 3 回： 文書の入力 第 4 回： 文書の入力と編集：フォント・サイズ・配置の変更 第 5 回： 演習問題（復習とテスト） 第 6 回： 文書へのイラストや写真の挿入（1）罫だより等への挿入方法 第 7 回： 文書へのイラストや写真の挿入（2）応用による作成 第 8 回： 表作成機能（1）簡単な表作成 第 9 回： 表作成機能（2）表作成の応用 第 10 回： 演習問題（復習とテスト） 第 11 回： グラフィック機能（図形の作成） 第 12 回： グラフィック機能（図形の活用） 第 13 回： ビジュアルな文書作成（1）お知らせ・掲示物の作成 第 14 回： ビジュアルな文書作成（2）行事等、広報作成への応用 第 15 回： 演習問題（復習とテスト）			
テキスト 『ポイントでマスター 基礎からはじめる 情報リテラシー Office2010 対応』実教出版			
参考書 阿部正平 阿部和子 ホソノヨーコ『保育者のためのパソコン講座』萌文書林			
学生に対する評価 定期試験 50% 課題 30% 平常点 20%			

シラバス

授業科目名： 情報処理演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位	担当教員名：阿部 よし江 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	情報機器の操作		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>①Excel2010 の各種機能について理解する。</p> <p>②実習の事前資料である、指導案作成の必要性を理解する。</p> <p>③図工等の手作り作品を写真で記録し、その活用方法を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>情報処理演習Ⅰ習得レベルを対象に授業を進める。ビジネスソフトの Excel2010 の基本的な操作方法を学習する。さらに、Excel と Word を総合的に活用する方法を学ぶ。</p> <p>また、Word の保育実務への活用として、他の授業内で作成した自分の図工作品などを撮影し、その写真を使った「作品集」を作成する。さらに実習にむけての事前資料(指導案)の作成にも取り組む。</p>			
<p>第1回： Excel ①基本操作、データの入力と編集</p> <p>第2回： Excel ②計算と表示形式(1) 基本的な計算</p> <p>第3回： Excel ③計算と表示形式(2) 複雑な計算</p> <p>第4回： Excel ④グラフの作成と編集</p> <p>第5回： Excel ⑤計算機能(いろいろな関数の活用)</p> <p>第6回： Excel ⑥データベース機能について</p> <p>第7回： Excel ⑦並び替えと検索条件による抽出</p> <p>第8回： Excel ⑧Word と Excel でのデータの利用</p> <p>第9回： Excel ⑨演習問題</p> <p>第10回： 実習に向けての事前資料作成①(指導案作成) 指導案形式枠の作成と入力方法</p> <p>第11回： 実習に向けての事前資料作成②(指導案作成) 個人で工夫した内容の入力</p> <p>第12回： Word ①文書への写真の取り込みと編集：携帯・デジカメからの写真の取り込み</p> <p>第13回： Word 手づくり作品集作成(1) 保存した写真の活用と作品作り</p> <p>第14回： Word 手づくり作品集作成(2) 作品の完成と発表会</p> <p>第15回： 総合演習問題</p>			
<p>テキスト</p> <p>『ポイントでマスター 基礎からはじめる 情報リテラシー Office2010 対応』実教出版</p>			
<p>参考書</p> <p>阿部正平 阿部和子 ホソノヨーコ『保育者のためのパソコン講座』萌文書林</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験 50% 課題 30% 平常点 20%</p>			

シラバス

授業科目名： 保育者論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：木村 昭代 中島 恵 担当形態：複数
科目	教職に関する科目（教職の意義等に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、勤務及び身分保障等を含む。） 		
授業の到達目標及びテーマ <ol style="list-style-type: none"> ① 保育者の専門性と資質について学び、自らの保育観、保育者観を構築する。 ② 保育者の専門職としての成長について理解し、自己を見つめ省察する態度を養う。 ③ 保育者の職務内容と、協働と連携のあり方を理解する。 ④ 保育者の今日的課題について理解する。 			
授業の概要 <p>保育者の専門性とは何か、専門性を高め成長し続けるためにはどうあったらよいか等、常に自分自身を見つめ、省察し、自らを磨いて豊かな人間性を培い、子どもとともに生きる保育者のあり方を考えていく。また保護者、同僚、他職種、他機関との連携のあり方を理解する。</p>			
授業計画 <p>第1回： 保育者とは 第2回： 保育者の役割と倫理 第3回： 保育者の仕事と役割（職務内容・勤務） 第4回： 保育者に求められる資質（1）体験の中の子ども理解 第5回： 保育者に求められる資質（2）体験の中の保育者理解 第6回： 保育者の専門性（1）今保育者に求められること・信頼関係 第7回： 保育者の専門性（2）成長と省察 第8回： 保育者の専門性（3）心を育てる保育 第9回： 保育者の職務（1）豊かな環境の構築～遊びを中心に～ 第10回： 保育者の職務（2）保護者・他職種・他機関との連携 第11回： 保育者の職務（3）危機管理 第12回： 保育者の職務（4）小学校との連携 第13回： 保育者と同僚性 第14回： 質の向上と研修制度（身分保障） 第15回： 保育・保育者の課題と展望</p>			
テキスト 秋田喜代美編集代表『保育者論』（株）みらい 配布資料			
参考書 「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「保育所保育指針」「保育所保育指針解説書」厚生労働省			
学生に対する評価 <p>筆記試験20% レポート60% 平常点20%</p> <p>単元ごとに指定されたレポート課題を提出すること。</p>			

授業科目名： 保育学講座	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位	担当教員名：加藤好子、松切理子、 小野真喜子、伊藤純子、石森由子、 佐藤万利子、飯島典子、中島 恵 担当形態：複数
科 目	教職に関する科目（教職の意義等に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等 		
授業の到達目標及びテーマ ①将来の保育者としての自覚を促し自らの資質について振り返り、幅広い教養を身につける。 ②幼児教育、保育及び児童福祉など様々な専門知識を講演、講話から学び理解する。 ③講演、講話からの学びを自分の中で整理し、文章にまとめることが出来る。			
授業の概要 円満な人格形成と保育者としてふさわしい専門性や資質を備えた保育者養成の一環として、将来の保育者としての自覚を促し幅広い教養を身につけ、職務内容の理解を深めることを目的とする。幼児教育、保育及び児童福祉などを中心に、様々な他の分野の専門家を学外から講師として招き、講話を聴講する。幅広い知見に触れることで、自らの資質について振り返り進路選択の機会ともする。受講後に毎回グループ担当教員にレポートを提出する。			
授業計画 第1回： 講座A：1年 「社会的養護を必要とする子どもたち」 第2回： 講座B：1年 「音で遊ぼう」 第3回： 講座C：1年 「発達障害についてⅠ」 第4回： 講座D：1年 「子どもの姿から保育実践を考える」 第5回： 講座A：2年 「コーチングに学ぶ～自分も相手も幸せになるコミュニケーションについて～」 第6回： 講座B：2年 「音で遊ぼう」 第7回： 講座C：2年 「発達段階に合わせた表現を支える」 第8回： 講座D：2年 「発達障害についてⅡ」 第9回： 第10回： この講座は、2年にわたって通算8回開講する。 第11回： （原則として「保育研修」の時間を充てる） 第12回： 第13回： 第14回： それぞれの講座終了後、学びを自らの資質・知識と照らし合わせ、振り返りをレポートにまとめることで、進路選択について考える機会とする。 第15回：			
テキスト 必要に応じてプリントを配布する			
参考書 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省			
学生に対する評価 毎回の感想文100%			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：佐藤 哲也 井本 佳宏
			担当形態：オムニバス
科 目	教職に関する科目（教職の基礎理論に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 		
授業の到達目標及びテーマ ① 就学前教育における教育の理念と意義、目的を自分の言葉でまとめることができる。 ② 教育思想と子ども観の歴史を理解し、教育方法や理論との関係について説明することができる。 ③ 教育課程・保育課程について理解し、幼児教育のあり方について考えることができる。			
授業の概要 本講義では、教育の意義と理念、目的および教育の基本的な仕組みを理解することを通して、保育における「教育」のあり方や子どもの成長を促す教師・保育者の役割等について考えていく。具体的には、就学前教育の原理、教育思想と子ども観の変遷、教育制度、教育課程、教育実践の基礎理論などを学習する。さらに、これらを踏まえて、実際の幼児教育や現代の教育課題等についても考察する。			
授業計画 第1回： オリエンテーション・教育原理で学ぶこと（佐藤） 第2回： 教育の定義と意義（佐藤） 第3回： 教育の理念・目的（佐藤） 第4回： 諸外国の教育思想と子ども観の歴史① 近代以前の子ども観（佐藤） 第5回： 諸外国の教育思想と子ども観の歴史② 近代教育思想（佐藤） 第6回： 日本の教育思想と子ども観の歴史（佐藤） 第7回： 教育制度の現状と課題（井本） 第8回： 教育制度の展望（井本） 第9回： 学校教育（佐藤） 第10回： 社会教育と生涯学習（佐藤） 第11回： 教育場面における教師・保育者の役割（佐藤） 第12回： 教育課程・保育課程（佐藤） 第13回： 教育実践の基礎理論（佐藤） 第14回： 現代の教育課題（佐藤） 第15回： まとめ（佐藤）			
テキスト 『幼稚園教育要領』文部科学省 『新保育士養成講座 教育原理』全国社会福祉協議会			
参考書 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省			
学生に対する評価 各回の授業でのコメントペーパーへの記入(平常点)30% 中間ミニレポート 20% 期末試験 50%			

シラバス

授業科目名： 保育の心理学Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：飯島 典子 担当形態：単独
科目	教職に関する科目（教育の基礎理論に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>① 発達プロセスを理解する。</p> <p>② 運動、認知、記憶など領域ごとの発達プロセスを理解する。</p> <p>③ 発達と学習のメカニズムを理解する。</p> <p>④ 幼稚園・保育所において特別な配慮を必要とする子どもの特徴と発達支援の方法を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>発達についての知識を通じて子どもを理解し、支援することの重要性について学ぶ。また、生涯発達についての知識として発達段階ごとの発達特徴とその変化、運動・認知・記憶といった領域ごとの発達プロセスおよび学習メカニズムについて理解を深める。さらに発達の連続性と関連性を踏まえ、小学校への接続を見据えた発達を促す保育のあり方を考察していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 発達と学習を理解することの意義</p> <p>第2回： 発達を規定する要因と発達のメカニズム</p> <p>第3回： 発達段階ごとの発達の特徴</p> <p>第4回： 発達と個人差</p> <p>第5回： 愛着と有能性</p> <p>第6回： 身体・運動の発達</p> <p>第7回： 社会性の発達</p> <p>第8回： 認知の発達</p> <p>第9回： 言葉・文字・数の理解の発達</p> <p>第10回： 記憶の発達</p> <p>第11回： 学習の原理</p> <p>第12回： 意欲と動機づけ</p> <p>第13回： 子どもの精神的健康と障害</p> <p>第14回： 児童期の発達の特徴と就学移行支援</p> <p>第15回： 幼稚園・保育所における特別支援教育</p>			
<p>テキスト 本郷一夫編著「保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」建帛社</p>			
<p>参考書 「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「保育所保育指針」、「保育所保育指針解説」厚生労働省 本郷一夫・八木成和編著「教育心理学」建帛社</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験 90% 課題 10%</p>			

シラバス

授業科目名： 保育内容総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位	担当教員名：小野 真喜子 担当形態：単独
科目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育課程の意義及び編成の方法		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>① 幼児の発達と保育内容について理解する。</p> <p>② 各領域の学びを総合的にとらえる視点を養う。</p> <p>③ 保育者の具体的な援助について理解する。</p> <p>④ 指導計画の作成方法を理解する。</p>			
授業の概要			
<p>保育内容についての理解を図り、保育内容を総合的にとらえる視点を養う。また、保育の意義を理解し、実践事例をもとに子どもの育ち、そして集団での育ちについて学び、子どもへの理解を深めるとともに保育の多様な展開について考える。実際に指導計画を作成し、指導案と実践との関わりを学ぶ。</p>			
授業計画			
<p>第1回： 保育の基本と保育内容（1）幼稚園教育要領と保育所保育指針</p> <p>第2回： 子どもの発達特性と保育内容（個と集団の発達と保育内容）</p> <p>第3回： 保育内容の展開と指導計画</p> <p>第4回： 子どもの理解（1）保育における観察と記録</p> <p>第5回： 子どもの理解（2）保育者の援助と子どもの成長</p> <p>第6回： 保育内容・保育制度の変遷</p> <p>第7回： 保育内容の展開（1）養護と教育が一体的に展開する保育</p> <p>第8回： 保育内容の展開（2）領域について・環境を通して行う教育</p> <p>第9回： 保育内容の展開（3）遊びによる総合的な保育</p> <p>第10回： 保育内容の展開（4）生活や遊びの連続性を考慮した保育</p> <p>第11回： 発達と保育内容 保育実践映像の視聴と討論</p> <p>第12回： 指導計画の作成（1）指導計画の意義と目的</p> <p>第13回： 指導計画の作成（2）指導計画作成の実際</p> <p>第14回： 現代保育の課題と保育内容</p> <p>第15回： 総括－保育内容総論で学んだこと－特別支援を必要とする子どもの保育について</p>			
テキスト	阿部和子・前原寛・久富陽子『新保育内容総論－保育の構造と実践の探究』萌文書林 プリント資料を配布		
参考書	『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省		
学生に対する評価			
授業態度 20% 提出物 30% 試験 50%			

シラバス

授業科目名： 保育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：飯島 典子 中島 恵 宮本 美和子 担当形態：オムニバス
科目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育課程の意義及び編成の方法		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>① 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。</p> <p>② 教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成および指導方法について具体的に理解する。</p> <p>③ 計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動的にとらえ理解する。</p>			
授業の概要			
保育における計画の意味、保育者が保育を工夫し創造する実際と記録や振り返り、評価の大切さについて、実際の保育実践をもとに理解していく。最終的には自分たちで保育計画を立て、実践し、振り返り、評価し、新たな計画につながることを理解していく。			
授業計画			
<p>第1回： 教育課程・保育課程の意義（飯島）</p> <p>第2回： 教育目標と教育課程・保育課程の編成（飯島）</p> <p>第3回： 保育の基本と計画 保育所保育指針と幼稚園教育要領（飯島）</p> <p>第4回： 指導案作成と検討①実習指導案の考え方（中島）</p> <p>第5回： 指導案作成と検討②実習指導案の作成（中島）</p> <p>第6回： 保育の省察及び記録（中島）</p> <p>第7回： 自己評価及び第三者評価（宮本）</p> <p>第8回： 指導計画（長期・短期）の役割と作成上の留意点（宮本）</p> <p>第9回： 保育の1年の流れ（4月～9月）（宮本）</p> <p>第10回： 保育の1年の流れ（10月～3月）（宮本）</p> <p>第11回： 養護と教育の一体化について（宮本）</p> <p>第12回： 実態把握と指導の計画（宮本）</p> <p>第13回： 計画、実践、省察・評価、改善の過程の循環による保育の質の向上（中島）</p> <p>第14回： 生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録（宮本）</p> <p>第15回： 指導計画についての質疑応答（中島）</p>			
テキスト 「保育課程・教育課程総論」柴崎正行・戸田雅美・増田まゆみ編 ミネルヴァ書房 授業において必要なプリントを配布			
参考書 「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「保育所保育指針」「保育所保育指針解説」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省			
学生に対する評価			
授業態度・平常点（毎回の感想30%程度・レポートの内容30%程度） 試験 40%程度			

シラバス

授業科目名： 健康 (領域「健康」指導法)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位	担当教員名：石森 真由子 担当形態：単独
科目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・保育内容の指導法		
授業の到達目標及びテーマ ① 領域「健康」のねらいと合わせて、現在の子どもの健康や生活の課題について理解する。 ② 基本的な生活習慣の重要性を理解する。 ③ 心身の健康・安全に留意した保育者としての関わり方を理解する。			
授業の概要 領域「健康」のねらいや内容を理解し、指導の際に考慮すべき点を身につける。基本的な生活習慣を中心とした心身の健康・安全についての知識を深め、現在の課題に留意しながら豊かな生活を送るために保育者としての関わり方や指導のポイント、教材の活用等を学ぶ。また、受講者自身の健康や生活習慣について客観的にみつめる機会とする。			
授業計画 第1回： オリエンテーション、子どもの健康をとらえる視点について 第2回： 子どもの健康をとりまく現状 第3回： 生理的発達①（生活リズム、体温） 第4回： 生理的発達②（体温、五感） 第5回： 心身の発達①（発育・発達、運動発達） 第6回： 心身の発達②（概念形成）子どもの生活と健康（基本的な生活習慣） 第7回： 子どもの生活と健康①（子どもの事故や怪我） 第8回： 子どもの生活と健康②（安全管理・安全教育） 第9回： 子どもの生活と健康③（安全対策、遊びのとらえ方） 第10回： 子どもの健康を保障する保育者の視点について 第11回： 課題研究（グループワーク）（1）テーマ決定、調査学習 第12回： 課題研究（グループワーク）（2）子どもに向けた指導内容の共通理解、教材研究 第13回： 課題研究（グループワーク）（3）発表に向けたテーマの指導案と教材準備 第14回： 課題発表（グループワーク）（1）内容を理解し知識を深めるテーマごとの発表 第15回： 課題発表（グループワーク）（2）子どもが理解しやすい指導法とは			
テキスト 井狩芳子『演習 保育内容 健康—大人から子どもへつなぐ健康の視点』（萌文書林） 必要に応じて資料配付			
参考書 「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「保育所保育指針」「保育所保育指針解説書」厚生労働省 「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省			
学生に対する評価 平常点、課題・レポート（40%程度）、筆記試験等（60%程度）			

シラバス

授業科目名： 人間関係（領域「人間関係」指導法）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位	担当教員名：加藤 和子 担当形態：単独
科目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・保育内容の指導法		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>①人間関係がどのように発達していくのか、個と集団の理解も含め理解できる。</p> <p>②遊びを通した人間関係の発達を自我欲求、自己抑制、自己主張、依存と自立等の知識をもとに説明することができる。</p> <p>③保育者が幼稚園・保育所において、遊びを通してどのように人間関係を育むのか説明できる。</p> <p>④少子化の現代社会において人間関係を育む上で集団保育と、保育者の果たす役割を理解できる。</p>			
授業の概要			
<p>人間は人との関わりなしには存在し得ない。本講義では、子どもがどのように人との関わりを通して人間関係を学んでいくのかについて、幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「人間関係」で示される「ねらい」と「内容」から学ぶ。遊びを通した人間関係の発達を自我欲求、自己抑制、自己主張、依存と自立等の知識を理解する。また、人間関係を育むための指導法を、理論と事例、模擬保育や遊びをもとに学ぶ。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：幼稚園教育要領・保育所保育指針における「人間関係」のねらいと内容</p> <p>第3回：発達から見る人間関係 ① エリクソンの発達段階</p> <p>第4回：発達から見る人間関係 ② 様々な発達理論から人間関係の育ちを学ぶ</p> <p>第5回：母子関係 ① 愛着を中心として</p> <p>第6回：母子関係 ② 母子関係におけるさまざまな理論</p> <p>第7回：遊びと人間関係 ① 子どもの発達と遊び</p> <p>第8回：遊びと人間関係 ② 遊びの中で育つ人間関係</p> <p>第9回：保育における人間関係の育ち 事例・模擬保育</p> <p>第10回：人間関係を育てる保育者の役割 ① 自我の芽生えを育てる</p> <p>第11回：人間関係を育てる保育者の役割 ② 自己抑制を育てる</p> <p>第12回：人間関係を育てる保育者の役割 ③ 人と関わりが難しい子どもへの理解と対応</p> <p>第13回：人間関係を育む環境の変化と保育者の役割</p> <p>第14回：子どもを支える園のシステム 保育者の人間関係</p> <p>第15回：「人間関係」まとめ</p>			
テキスト	森上史朗編 「保育内容『人間関係』 ミネルヴァ書房		
参考書	<p>「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」文部科学省</p> <p>「保育所保育指針」「保育所保育指針解説」厚生労働省</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省</p>		
学生に対する評価			
定期試験90% 受講態度10%			

シラバス

授業科目名： 環境 (領域「環境」指導演法)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位	担当教員名：小野 真喜子 飯島 典子 担当形態：複数
科 目	教職に関する科目（教育課程及び指導演法に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・保育内容の指導演法		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>① 子どもの発達における環境の意義や役割について理解する。</p> <p>② いかに園生活を通して子どもたちが豊かな自然体験や様々な実体験を積み重ねていくかを自身自身が体験の中で会得する。</p> <p>③ 子どもたちによりよい物的環境、人的環境を提供できる素地を培う。</p>			
授業の概要			
<p>子どもの発達における環境の意義や役割について、また園生活を通して子どもたちが豊かな自然体験や様々な実体験を積み重ねていけるようにするためには、園内外の環境をどう構成し、どのように出会えるようにしていけばよいか学ぶ。そのためには人的環境として教師・保育者の役割はどうあるべきか環境教育の指導演法について考える。</p>			
授業計画			
<p>第1回： ガイダンス：領域「環境」の意義</p> <p>第2回： 自然事象との関わり（具体的に環境を扱う畑作り、栽培、を通して学んでいく）</p> <p>第3回： 野菜栽培①実際に野菜を育てる中で、自然に対する興味関心を育てる指導演法を学ぶ</p> <p>第4回： 園内環境について：法的基準及び意図的・計画的な園舎・園庭の環境構成</p> <p>第5回： 園外環境について：地域環境 散歩による植物マップの作成</p> <p>第6回： 野菜栽培②野菜の収穫を通しての環境教育</p> <p>第7回： 動物との関わり子どもの発達と物的環境の役割</p> <p>第8回： 環境教育の歴史とこれからの課題</p> <p>第9回： 物や道具との関わり</p> <p>第10回： 家庭との関わり（家事と家族、年中行事と家族）</p> <p>第11回： 家事と家族、年中行事と家族との関わりについての発表</p> <p>第12回： 教育課程・保育計画の編成と環境構成について学ぶ</p> <p>第13回： 長期指導演法および短期指導演法の作成と環境構成について学ぶ</p> <p>第14回： 自然事象と人間との関わりをテーマとした紙芝居の発表会</p> <p>第15回： まとめ 1年間の気づきを整理する</p>			
テキスト 柴崎正行・若月芳浩 編 「保育内容『環境』 ミネルヴァ書房 プリント配布			
参考書 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省			
学生に対する評価			
授業態度・授業毎の感想 50%程度、レポート 50%程度			

シラバス

授業科目名： 言葉 (領域「言葉」指導法)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位	担当教員名：飯島 典子 担当形態：単独
科目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・保育内容の指導法		
授業の到達目標及びテーマ ① 領域「言葉」の意義とねらい、内容を理解する。 ② 言葉とコミュニケーションの発達過程を理解する ③ 言葉の発達を促す環境や児童文化財、教材を理解する。 ④ 言葉の発達を促す保育者の役割、指導と援助について考えることができる。			
授業の概要 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「言葉」で示される「ねらい」と「内容」から保育場面における言葉の捉え方について学ぶ。また、言葉の発達のプロセスを理解するとともに、言葉話す、聞く、そして言葉を使って考えるといった子どもにとっての言葉の意味について理解を深める。それを踏まえ、子どもの豊かな言葉を育てるための指導計画を作成するとともに、それを実践するための児童文化財、言語活動などについて教材研究と模擬授業を行い、実践的な指導力を身に付けていく。			
授業計画 第1回： 領域「言葉」の歴史の変遷 第2回： 領域「言葉」の「ねらい」と「内容」 第3回： 言葉の発達と指導・援助 (1) コミュニケーションの発達と指導・援助 第4回： 言葉の発達と指導・援助 (2) 話を聞くことの発達と指導・援助 第5回： 言葉の発達と指導・援助 (3) 言葉で伝えることの発達と指導・援助 第6回： 言葉の発達と指導・援助 (4) 言葉による思考の発達と指導・援助 第7回： 言葉の指導法 (1) 指導計画の作成 第8回： 言葉の指導法 (2) 教材研究「絵本」「紙芝居」 第9回： 言葉の指導法 (3) 教材研究 言語活動 第10回： 言葉の指導法 (4) 教材研究 文字と数字 第11回： 言葉の指導法 (5) 模擬授業 第12回： 言葉の指導法 (6) 模擬授業の振り返り 第13回： 小学校へ向けて発達と学びの連続性を踏まえた幼児教育の指導法 第14回： 領域「言葉」の保育内容の総合化 第15回： まとめ			
テキスト 「幼稚園教育要領」文部科学省、「保育所保育指針」厚生労働省 柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容「言葉」』ミネルヴァ書房			
参考書 「幼稚園教育要領解説」文部科学省、「保育所保育指針解説」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省			
学生に対する評価 定期試験 90% 課題 10%			

シラバス

授業科目名： 音 楽 表 現 (領域「表現A」指導法)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位	担当教員名：松村 万里子
			担当形態：単独
科 目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・保育内容の指導法		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>① 幼児期の音楽表現の方法と指導法を体験し学習する。</p> <p>② 感性豊かな保育者としての基礎を形成する</p> <p>③ 音楽表現を通して保育者の協働と連携のありかたを理解する。</p> <p>④ 総まとめのオペレッタ（劇遊び）を目標に舞台、歌唱、身体表現、楽器演奏等表現について考察する。</p>			
授業の概要			
<p>子どもの感性、意欲、創造性の育ちについて音楽の側面から考えていく。幼児期での音楽活動は保育者の音楽能力・音楽活動の影響を多く受ける。子どもと関わる時、保育者自身が豊かな感性を持ち、表現豊かであることが期待され、保育者がどのように幼児の表現活動を引き出すか考える。歌ったり、聴いたり、動いたり等表現豊かな方法は多岐にわたるが、様々な音楽表現活動を体験を通して製作し、上演する。</p>			
授業計画			
第1回： オリエンテーション 保育内容領域「表現」と音楽表現について			
第2回： ダルクローズの音楽教育法①身体表現を指導する 手遊び・指あそび 1			
第3回： ダルクローズの音楽教育法②即興演奏を指導する 手遊び・指あそび 2			
第4回： コダーイ・メソッドの音楽教育法について学ぶ 手遊び・指あそび 3			
第5回： コダーイ・メソッドの音楽教育法 子どもの発達のためのアプローチ			
第6回： オルフ オルフ楽器を使用した楽器演奏を指導する			
第7回： 発表：身体表現を含めた発表（手遊び・指遊び含む）			
第8回： あそびと音楽（1）イメージ表現を中心として長調、短調、速度、リズム、強弱の変化			
第9回： 楽器あそびを中心としてオルフ楽器を応用し手作り楽器との器楽合奏を指導			
第10回： あそびと音楽（2）ピアノの効果的使用・MC の入れ方を指導			
第11回： あそびと音楽（3）パネルシアター等の教材研究で「秋を表現」し模擬授業を行う			
第12回： あそびと音楽（4） 劇あそび「大きなかぶ」のグループ活動の指導案を立てる			
第13回： オペレッタ劇あそび① 考える、選曲、工夫、台本作成（指導案作成）を指導			
第14回： オペレッタ劇あそび② 台本（指導案）提出			
第15回： オペレッタ劇あそび③ 各グループで上演する。 上演したオペレッタの振り返り レポートにまとめ提出			
テキスト「手遊び指遊び」（ドレミ楽譜出版社）吉野幸男他共著 「表現者を育てる20のレッスンー保育者・初等教育教員養成のために」（大学図書出版）			
参考書 吉野幸男他「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」（ドレミ楽譜社）、「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」文部科学省、「保育所保育指針」「保育所保育指針解説」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省			
学生に対する評価			
劇遊びへの取り組みや発表50%、レポート50%、			

シラバス

授業科目名： 造形表現 (領域「表現B」指導法)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位	担当教員名：伊藤 純子 担当形態：単独
科 目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・保育内容の指導法		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>① 造形表現が子どもの発達成長に大きく影響することとその重要性について理解を深める。</p> <p>② 年齢・発達に即した保育活動の組み立てについて理解する。</p> <p>③ 自らの表現力や感性を高め子どもに関わる保育者としての資質の向上を図る。</p> <p>④ 各領域との関連性を理解し、造形表現を通して展開できる教育実践力を修得する。</p>			
授業の概要			
<p>子どもは造形活動の中で、自分が感じたことを表現しながら感性を養い、また、他者との関係をつくり、共に創造していくことの喜びを体得していく。本科目では、他領域との関連を考えながら、「表現」の重要性について学び、保育者がいかに子どもの活動を援助していくべきか、年齢、発達に即した活動を構築できるよう、事例や制作活動、体験を通して実践力を身につけていく。</p>			
授業計画			
第1回：	造形表現の意義	発達と造形表現	
第2回：	造形表現と発達	子どもの発達を表現としてとらえる	
第3回：	造形表現指導法①	低年齢児に向けた造形プログラムの理解	
第4回：	造形表現指導法②	低年齢児に向けた造形プログラムの検討	
第5回：	造形表現指導法③	幼児の発達を表現としてとらえる	
第6回：	造形表現指導法④	3歳以上児に向けた造形プログラムの理解	
第7回：	造形表現指導法⑤	3歳以上児に向けた造形プログラムの検討	
第8回：	絵本からの発想 人形劇を作る①	プログラムの検討	
第9回：	絵本からの発想 人形劇を作る②	人形劇のための制作	
第10回：	絵本からの発想 人形劇を作る③	構成と演出 指導者としての考察	
第11回：	絵本からの発想	発表会を作る	
第12回：	生活と造形表現のかかわり	生活の中から見つける表現活動	
第13回：	総合的な造形表現活動①	指導計画立案 保育を豊かに展開する活動を考える	
第14回：	総合的な造形表現活動②	ロールプレイ 指導の実践と考察	
第15回：	まとめ	幼児教育における造形表現の今日と課題	
テキスト 槇英子「保育をひらく造形表現」 萌文書林			
授業ごとの配布資料			
参考書	「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「保育所保育指針」「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省		
学生に対する評価			
平常点 30% 課題作品・提出物 70%			

シラバス

授業科目名： 保育指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：小野 真喜子 飯島 典子 担当形態：複数
科目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・保育内容の指導法		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>① 保育者として子どもたちにどのような保育観を持って接するべきかを理解する。</p> <p>② 保育観に基づいて具体的な働きかけ、言葉掛け、興味付け、援助の仕方を理解する。</p> <p>③ 子ども達にとっての喜びや充実感を持たせる為の指導方法を理解する。</p>			
授業の概要			
<p>保育者の大きな役割は、子どもの発達段階や個々の気持ちに応じながら、より良い方向へ導いていくことである。その為には、子どもを知ること、理解を深めること、そして保育者自身がしっかりとした保育観を持って子ども達と接することが大切である。そこで、どのような働きかけ、言葉掛け、興味付け、援助のもとで、喜びや楽しさ、充実感が味わえるのかを、講義と実体験の両面から指導のあり方を理解する。</p>			
授業計画			
<p>第 1回： オリエンテーション 子どもの発達と保育の方法・技術について</p> <p>第 2回： 導入の大切さ・幼児の心を読み取る</p> <p>第 3回： 生活の流れについて① 新しい環境へ迎え入れるときの配慮</p> <p>第 4回： 生活の流れについて② 園生活の流れと指導の方法</p> <p>第 5回： 絵本・詩の世界について 絵本の読み方、詩の伝え方</p> <p>第 6回： 描画・制作の指導について</p> <p>第 7回： 折り紙の指導① 基本的折り方の指導法</p> <p>第 8回： 折り紙の指導② 応用方法の指導方法</p> <p>第 9回： 指人形製作指導① 紙粘土の扱い方と創作の指導法</p> <p>第10回： 指人形製作指導② 指人形の制作方法と指導法</p> <p>第11回： 人間関係と遊びの援助① 保育者との関係を中心に</p> <p>第12回： 人間関係と遊びの援助② 同年齢同士の関係を中心に</p> <p>第13回： 人間関係と遊びの援助③ 異年齢との関係を中心に</p> <p>第14回： 指人形を用いた指導法のグループ発表会</p> <p>第15回： まとめ（レポート）</p>			<p>※毎回の授業の中に手遊びや絵本、詩、わらべうた遊びなどを取り入れていく。</p>
テキスト	授業において必要なプリントを配布		
参考書	<p>「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」文部科学省</p> <p>「保育所保育指針」「保育所保育指針解説書」厚生労働省</p> <p>「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省</p> <p>鈴木敏朗・本間雅夫 「わらべうたによる音楽教育」自由現代社</p>		
学生に対する評価			
授業態度 毎回の感想 60%程度 レポートの内容 40%程度			

シラバス

授業科目名： 教育方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位	担当教員名：佐藤 哲也
			担当形態：単独
科 目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>① 保育・教育方法の基礎理論について理解する。</p> <p>② 保育・教育現場で援用されている方法論について理解する。</p> <p>③ 保育指導案や学習指導案を作成できる力量を磨く。</p> <p>④ 今日の保育・教育課題に対応した方法論的課題について考える。</p>			
授業の概要			
今日の保育・教育実践の課題と関連づけながら、教育方法の基礎理論、保育・授業実践事例を学ぶとともに、教師に必要とされる授業実践力を身につける。また、授業内容を踏まえて、適格な指導案を作成できるよう課題を与えていく。			
授業計画			
<p>第1回：イントロダクション：教育という営為に伴う方法論的視点</p> <p>第2回：教育方法の歴史的展開（1）：古典的教育方法論</p> <p>第3回：教育方法の歴史的展開（2）：近代教育における個と集団の形成</p> <p>第4回：教育方法の歴史的展開（3）：学校教育の発展と授業論の系譜</p> <p>第5回：教育方法の歴史的展開（4）：幼児教育・保育における方法論</p> <p>第6回：教育方法論の基本的視座（1）：子どもの〈学び〉とは何か</p> <p>第7回：教育方法論の基本的視座（2）：学力論の系譜</p> <p>第8回：教育方法論の基本的視座（3）：保育をデザインする視点と方法</p> <p>第9回：教育方法論の基本的視座（4）：授業をデザインする視点と方法</p> <p>第10回：教育方法論の展開（1）：方法としての教育環境</p> <p>第11回：教育方法論の展開（2）：教材・教具を考える</p> <p>第12回：教育方法論の展開（3）：教師の声掛け、発話、雰囲気づくり</p> <p>第13回：教育方法論の展開（4）：情報通信技術（ICT）を活用した保育・授業展開</p> <p>第14回：諸外国における革新的教育実践とその方法</p> <p>第15回：まとめ：保育・教育方法論の今日的課題</p>			
テキスト 田中耕司他著『新しい時代の保育方法』有斐閣 2012年			
<p>参考書 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省 必要に応じてプリント等を配付する。</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省</p>			
学生に対する評価			
正規試験（70）、提出レポート（30）、計100点で評価する。			

シラバス

授業科目名： 教育相談 (幼児理解を含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：佐藤 誠子 担当形態：単独
科 目	教職に関する科目（生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児理解の理論及び方法 ・ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 		
授業の到達目標及びテーマ ①子ども理解の重要性について自分の言葉で説明できる。 ②教育相談の対象、方法、プロセスについて理解し説明できる。 ③保育カウンセリングの基本的な考えについて理解し、実際の場面でどう活用できるかを考えることができる。			
授業の概要 幼児教育において、子どもをどう理解し、子どもの成長・発達をどう支援していくかを考えることは保育者にとって重要なことである。本授業では、幼児期における子ども理解のあり方について考え、さらに保育における教育相談（保育カウンセリング）において求められる保育者の姿勢や具体的方法について、事例をもとに学んでいく。			
授業計画 第1回： オリエンテーション：教育相談で学ぶこと 第2回： 保育における教育相談の意義、方法と対象 第3回： 子どもの発達について 第4回： 幼児理解と教育相談 第5回： 幼児理解の方法と視点 第6回： 保育におけるアセスメント 第7回： 保育カウンセリングに求められる技法とカウンセリングマインド 第8回： 保育カウンセリングのプロセス 第9回： 教育相談の方法① 発達相談・発達支援の方法と実際 第10回： 教育相談の方法② 子育て相談の方法と実際 第11回： 教育相談の方法③ 構成的グループエンカウンター（SGE） 第12回： 教育相談の方法④ 保護者に対するSGE 第13回： 気になる子どもの理解と関わり方 第14回： 地域・関係機関との連携について 第15回： まとめ			
テキスト	文部科学省「幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価」ぎょうせい 2010年 富田久枝・杉原一昭（編）「保育カウンセリングへの招待」北大路書房 2007年		
参考書	西見奈子(編)「教育相談支援 子どもとかかわる人のためのカウンセリング入門」萌文書林 「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」文部科学省		
学生に対する評価 各回の授業でのコメントペーパーへの記入(平常点)20% 中間ミニレポート 30% 期末レポート 50%			

シラバス

授業科目名： 保育・教職実践 演習（幼稚園）	単位数： 2単位	教科担当教員：松村万里子、伊藤純子、石森真由子、佐藤万利子 教職担当教員：加藤和子、小野真喜子、飯島典子、中島 恵			
科目	教職に関する科目				
履修時期	2年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	90人 1グループ25名程度を基本とし、テーマによって全体授業の形態をとる。				
教員の連携・協力体制	<p>教職担当教員と教科担当教員を組み合わせた教員全員でのグループ指導を実施し、2年間の総まとめの授業とする。学生を4グループ（1グループ25名程度）に分け、事例研究やロールプレイングにおけるグループ指導を実施する。特に事例研究のまとめ等においては個別指導も行っていく。グループ・個別指導にあたっては「履修カルテ」を参照するとともに、教員間の共通理解を十分に図り、そのための研修を重ねていく。</p>				
授業の到達目標及びテーマ	<p>① 履修カルテやこれまでの学修の振り返りを通じて自らの課題を見つけ、解決していく力を身につける。 ② これまで学んだ保育に関する学修を総合化し、保育実践力を身につける。 ③ グループ活動や保育実践を通してコミュニケーション力、対人関係の人的総合力を高める。 ④ 事例研究を通して保育に関する知識と理解を深め保育者としての資質向上を図る。</p>				
授業の概要	<p>実習など、これまでの学業を通して得られた自らの課題に向き合い、その解決に取り組む授業とする。保育の場における今日的課題を取り上げ、グループ討議・事例研究・ロールプレイング・フィールドワーク等多様な演習を通して学びを深めていく。具体的には、保育実践力・保護者理解とその連携・協力の重要性を学ぶ。さらには実習中に興味関心を持った事例について事例研究を行い、発表と討議の機会を持ちレポートにまとめることで、保育者となることの意欲を高めるとともに保育者の置かれている現状や果たすべき役割について学ぶ。また、1年生前期から実施している履修カルテを継続して作成し、その内容の点検を通して自らの資質能力を確認し、課題の明確化を図る。</p>				
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションと履修カルテの作成 第2回 これまでの学修の振り返り 第3回 事例研究「実習中のエピソードをもとにグループ討論」(1) 保育者の役割・子どもに対する責任 第4回 事例研究「実習中のエピソードをもとにグループ討論」(2) 幼児理解やクラス経営 第5回 事例研究「実習中のエピソードをもとにグループ討論」(3) 教科・保育内容等の指導力 第6回 事例研究発表とまとめ プレゼンテーション 第7回 実習中の保護者とのコミュニケーション 第8回 ロールプレイングを通じた保護者理解 第9回 ロールプレイングを通じた保育者の役割理解 第10回 保育者の現状と役割 全体 現職保育者の講話・ディスカッション 第11回 保育実践 フィールドワークを通して小学校教育との接続を理解する 第12回 保育実践研究作成 (1) 保育実践研究作成の意義と目的 第13回 保育実践研究作成 (2) 保育実践研究作成の実際 研究の手法を学ぶ 第14回 保育実践研究報告 第15回 資質能力の確認、まとめ 履修カルテの振り返りを通して学習成果の点検を行う</p>				
テキスト	「保育研究ゼミレポート抄録集」聖和学園短期大学保育福祉学科保育専攻				
参考書・参考資料等	<p>「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「保育所保育指針」「保育所保育指針解説」厚生労働省</p>				
学生に対する評価	発表40%、グループでの活動状況10%、レポート50%				

様式第3号 (教科に関する科目・養護に関する科目・栄養に係る教育に関する科目)

学部・学科等別 教員組織に関する書類

認定を受けようとする学部・学科等	認定を受けようとする免許状の種類(免許教科)	科目の別	専任等の別	教授等の別	氏名	担当授業科目	備考
保育学科	幼二種免	教科に関する科目	専任	教授	松村万里子	音楽	1
			専任	教授	伊藤純子	図画工作Ⅱ	2
			専任	准教授	石森真由子	幼児体育Ⅰ 幼児体育Ⅱ	3
			専任	准教授	佐藤万利子	音楽	4
			兼担	教授	加藤和子	生活	5
			兼任	教授	関根俊二	国語	6
			兼任	講師	新妻悦子	図画工作Ⅰ	7

学部・学科等別 教員組織に関する書類

認定を受けようとする学部・学科等	認定を受けようとする免許状の種類(免許教科)	科目の別	専任等の別	教授等の別	氏名	担当授業科目	直近の課程認定審査の状況							備考		
							免許状の種類(免許教科)	担当授業科目				審査大学	審査年度			
								名称	単位数(単位)	科目区分	必要事項					
保育学科	幼二種免	教職に関する科目	専任	教授	木村昭代	保育者論	1	A								8
			専任	教授	小野真喜子	保育内容総論	3	A	幼二種免	保育・教職実践演習(幼稚園)	専任	6	聖和学園短期大学	H21		9
					環境(領域「環境」指導法)	3	B									
					保育指導法	3	B									
					保育・教職実践演習(幼稚園)	6										
					保育学講座	1	BC									
					教育実習Ⅰ	5										
					教育実習Ⅱ	5										
			専任	教授	加藤和子	人間関係(領域「人間関係」指導法)	3	B	幼二種免	保育・教職実践演習(幼稚園)	兼担	6	聖和学園短期大学	H21		前掲5
					保育・教職実践演習(幼稚園)	6										
					保育学講座	1	BC									
					教育実習Ⅰ	5										
		教育実習Ⅱ	5													
専任	准教授	飯島典子	保育の心理学Ⅰ	2	B									10		
		言葉(領域「言葉」指導法)	3	B												
		保育・教職実践演習(幼稚園)	6													
		保育学講座	1	BC												
		教育実習Ⅰ	5													
		教育実習Ⅱ	5													
専任	講師	中島 恵	保育者論	1	A									11		
		保育課程論	3	A												
		保育・教職実践演習(幼稚園)	6													
		保育学講座	1	BC												
		教育実習Ⅰ	5													
		教育実習Ⅱ	5													
兼担	教授	松村万里子	音楽表現(領域「表現A」指導法)	3	B	幼二種免	保育・教職実践演習(幼稚園)	兼担	6	聖和学園短期大学	H21		前掲1			
		保育・教職実践演習(幼稚園)	6													
		保育学講座	1	BC												
		教育実習Ⅰ	5													
		教育実習Ⅱ	5													
兼担	教授	伊藤 純子	造形表現(領域「表現B」指導法)	3	B								前掲2			
		保育・教職実践演習(幼稚園)	6													
		保育学講座	1	BC												
		教育実習Ⅰ	5													
		教育実習Ⅱ	5													
兼担	准教授	石森真由子	健康(領域「健康」指導法)	3	B	幼二種免	保育・教職実践演習(幼稚園)	専任	6	聖和学園短期大学	H21		前掲3			
		保育・教職実践演習(幼稚園)	6													
		保育学講座	1	BC												
		教育実習Ⅰ	5													
		教育実習Ⅱ	5													

		兼任	准教授	佐藤万利子	保育・教職実践演習(幼稚園)	6		幼二種免	保育・教職実践演習(幼稚園)	兼任	6		聖和学園短期大学	H21	前掲4
					保育学講座	1	BC								
					教育実習Ⅰ	5									
					教育実習Ⅱ	5									
		兼任	講師	佐藤誠子	教育原理	2	A								12
					教育相談(幼児理解を含む)	4	AB								
		兼任	講師	宮本美和子	保育課程論	3	B								13
		兼任	講師	佐藤哲也	教育方法	3	D								14

様式第5号（教育実習実施計画に関する書類）

教 育 実 習 実 施 計 画	
1	教育実習の内容及び成績評価等
①	教育実習の時期 2年次5月～6月
②	教育実習の実習期間・総時間数 予備実習：幼稚園 2日間（16時間（一日8時間×2）） 本実習：幼稚園 20日間（160時間（一日8時間×20）） 計22日間（176時間）
③	教育実習校の確保の方法 実習先の確保に関しては、本学科の実習目標に沿って充実した実習を行うことが出来るよう、幼稚園と宮城県内幼稚園教員養成校9校で構成している「宮城県幼稚園教育実習連絡協議会」において協議している。「宮城県幼稚園教育実習連絡協議会」は宮城県総務部、宮城県教育庁義務教育課の指導と協力のもと、県内の幼稚園教員養成校が共通の方式を採って実施しているものである。毎年度各養成校が在籍者数、学生の居住地から通学状況を勘案の上、実習園を選択し、年2回の会議において、実習生数の把握、実習の内容、時期、実習先の調整を図っている。また年1回の幼稚園と養成校合同の会議で、実習内容の反省と実習指導のあり方について意見交換を行っている。この協議を経て実施に至っている。本学科が教育実習先として現在承諾を得ている幼稚園は添付資料の通りである。【資料：教育実習受入承諾書】
④	教育実習内容 予備実習は、本実習の前（5月）に同一学園内の聖和幼稚園で2日間、1クラス5～6名の学生を配属し、学生が立案した指導案をもとに保育を展開するものである。 本実習は、学生一人一人が実習園において20日間の実習を行う。実習内容は「宮城県幼稚園教育実習連絡協議会」作成の「教育実習の手引き」に基づき計画され、実習園の指導計画の下、観察実習、部分実習を経て全日実習へすすみ、全日実習の一日が研究保育に当てられる。期間中、毎日実習日誌を記録し、部分実習、全日実習の為の指導案を作成し、実習園の指導、助言を受け保育を行う。
⑤	教育実習生に対する指導の方法 実習中は本学のグループ指導担当者が、担当学生11～12名の実習園と連携を図って、指導している。直接の巡回はグループ担当者が行うが、訪問の前に電話で学生の様子を伺い実習が効果的に進められるようにする。個々人の実習内容や支援の必要性によっては実習担当責任者もしくは保育学科長が巡回して指導を行う。巡回計画は、教育実習では基本的に、実習2週目までに電話による実習状況の把握と指導を行い、それに基づいて3週目以降に巡回を行う。学生の実習状況によりその日程を前後し、学生の実習支援に最善な時期を選ぶことや必要に応じて巡回の回数を増やすこともある。実習園には事前に「宮城県幼稚園教育実習連絡協議会」や、「教育実習の手引き」を通して指導内容・方法を依頼している。また実習前の学生との打ち合わせ、実習中の指導、実習後の評価まで依頼している。
⑥	教育実習の成績評価（評価の基準及び方法） 宮城県幼稚園教育実習連絡協議会指定の「教育実習評価表」による実習指導担当者の評価、実習記録、出席等により、専任教員が総合評価する。【資料：教育実習評価表】

2 事前及び事後の指導の内容等

① 時期及び時間数

<事前指導>

- (1) 観察実習：(1年次)
 - i) オリエンテーション (7月、2時間)
 - ii) 観察実習 (9月上旬2日、16時間)
 - iii) 反省会 (5月：2時間)
- (2) 部分実習：(1年次)
 - i) オリエンテーション (2月、2時間)
 - ii) 部分実習 (2月上旬3日、16時間)
 - iii) 反省会 (2月：2時間)
- (3) 予備実習と教育実習ガイダンス：(2年次)
全体指導およびグループ指導 (4月：4時間、5月：2時間、6月：2時間) を実施する

<事後指導>

- (1) 予備実習反省会・教育実習反省会 (5月：2時間、6月：2時間)
- (2) 教育実習報告会 (10月：2時間)

② 内容 (具体的な指導項目)

事前・事後指導は、専任教員が11~12名の学生を受け持つグループ指導体制で、各実習の指導や実習終了後の反省及びレポートの点検等を行う。

<事前指導>

(1) 観察実習

聖和幼稚園で1日、仙台市私立幼稚園16園で1日、計2日間の観察実習を行う。

聖和幼稚園では1年生を2グループに分け1日45~50名、1クラスに5~6名配置する。

翌日、16園に学生2~4名を配置して実施する。

<目的>

- i) 幼稚園の概要を知る。
- ii) 幼稚園の施設の特徴を知る。
- iii) 幼稚園の1日の流れを知る
- iv) 幼稚園教諭の職務を理解する。

これらを目的として、各協力幼稚園からの一日の流れと保育における注意事項を事前指導し、観察実習を行っている。学生は、聖和幼稚園からの指導案については事前に書き写し観察に臨む。

(2) 部分実習

聖和幼稚園で、1年生を2グループに分け1日45~50名、1クラスに4~5名配置し3日間の実習を行う。

<目的>

- i) 聖和幼稚園の指導案を基に活動の為の環境設定や準備物について理解する。
- ii) 実習生自らが一日の流れの中の一部を担当する為に、より詳しい指導案作成の必要性を理解する。

iii) 実際に保育の一部を担当することで幼児との関わり方を理解する。

これらを目的として、聖和幼稚園の三日間の指導案を基に学生一人一人が一日の保育の一部を担当して保育を行う。保育を行うに際しては、聖和幼稚園の指導案を基にして学生一人一人がさらに詳しい指導案を書いて保育に臨み、その後実際の子どもの姿から見えてきた課題を反省会で述べ合い互いに気づき次への実習へ向かう。

(3) 教育実習ガイダンス

上記「観察実習」、「部分実習」の経験を踏まえた上で、さらに i) 実習の目的、ii) 実習の各段階とその内容、iii) 保育者の職務理解、iv) 実習の準備等、v) 実習の心構え、vi) 実習日誌の書き方、vii) 実習において知り得た個人の秘密の保持について配慮するようにする（守秘義務）。これらをガイダンスの中で改めて指導する。

<事後指導>

(1) 観察実習反省会

実習終了後各自が、観察レポート、実習記録、指導案、自己評価表を提出し、それらを基に 8 人の専任教員が担当するグループ（11～12 名）毎に反省会をもち、一人一人が、新たな課題意識を持つように指導する。

(2) 部分実習反省会

実習終了後各自が、実習記録、指導案、自己評価表を提出し、それらを基に 8 人の専任教員が担当するグループ（11～12 名）毎に反省会をもち、一人一人が、新たな課題意識を持つように指導する。

(3) 教育実習反省会

1) 予備実習反省会

実習終了後、実習記録、指導案、自己評価表を提出し、それらを基に 8 人の専任教員が担当するグループ（11～12 名）毎に反省会をもち、一人一人、本実習に向けての新たな課題意識を持つように指導する。さらに「予備実習指導案伝達会」を行いグループごとの活動について反省を含めて紹介し合う。

2) 教育実習反省会

実習終了後、実習記録、指導案、自己評価表を提出し、それらを基に 8 人の専任教員が担当するグループ（11～12 名）毎に反省会をもち、一人一人が反省を述べ合い、より良い保育ができるように学修に向けての新たな課題意識を持つように指導する。

(4) 実習報告会

1・2 年次合同で全体会及びグループ別で実施する。反省記録をもとに資料集の編集・作成し実習の体験から学んだこと・反省点を一年生に伝える。体験からの学び、反省点について一年生に伝える中で、実習体験を見直し今後の課題を確認する。

(5) 実習のまとめ

実習中の課題についてまとめ、保育・教職実践演習に継続していく。実習中のエピソード記録を提出。その記録を基に検討する。

教育実習反省会（グループ）において、今後に向けての指導を行う。

3 教育実習に関して連絡調整等を行う委員会・協議会等（以下「委員会等」という。）

① 大学内の各学部・学科等との連絡調整を行う委員会等

- ・ 委員会等の名称

保育学科会議（教員組織）

事務部教務課（事務組織）

- ・ 委員会等の構成員（役職・人数など）

保育学科教員（学科長1名、主任1名、実習担当3名、グループ指導担当8名）

事務部教務課職員（部長1名、課長1名、主任1名、実習担当1名）

- ・ 委員会等の運営方法

保育学科教員8名による毎月1回の定例保育学科会議他及び臨時保育学科会議により実習の企画、運営を行う。

実習生の書類（実習生調書、実習日誌、出勤表、評価表等）準備、実習園への書類発送、受け取り等、事務処理関係については、教務課職員と連携して行う。

【委員会の組織図】



② 大学外の関係機関（例：都道府県及び市区町村教育委員会など）との連絡調整等を行う委員会等

- ・ 委員会等の名称

宮城県幼稚園教育実習連絡協議会

- ・ 委員会等の構成員（役職・人数など）

宮城県内幼稚園教諭養成校の教育実習担当者により構成

石巻専修大学人間学部人間教育学科

尚綱学院大学総合人間科学部子ども学科

聖和学園短期大学保育学科

仙台白百合女子大学人間発達学科

仙台青葉学院短期大学こども学科

東北生活文化大学短期大学部生活文化学科子ども生活専攻

東北福祉大学子ども科学部子ども教育学科 総合福祉学部社会福祉学科

宮城学院女子大学発達臨床学科 児童教育学科

宮城誠真短期大学保育科

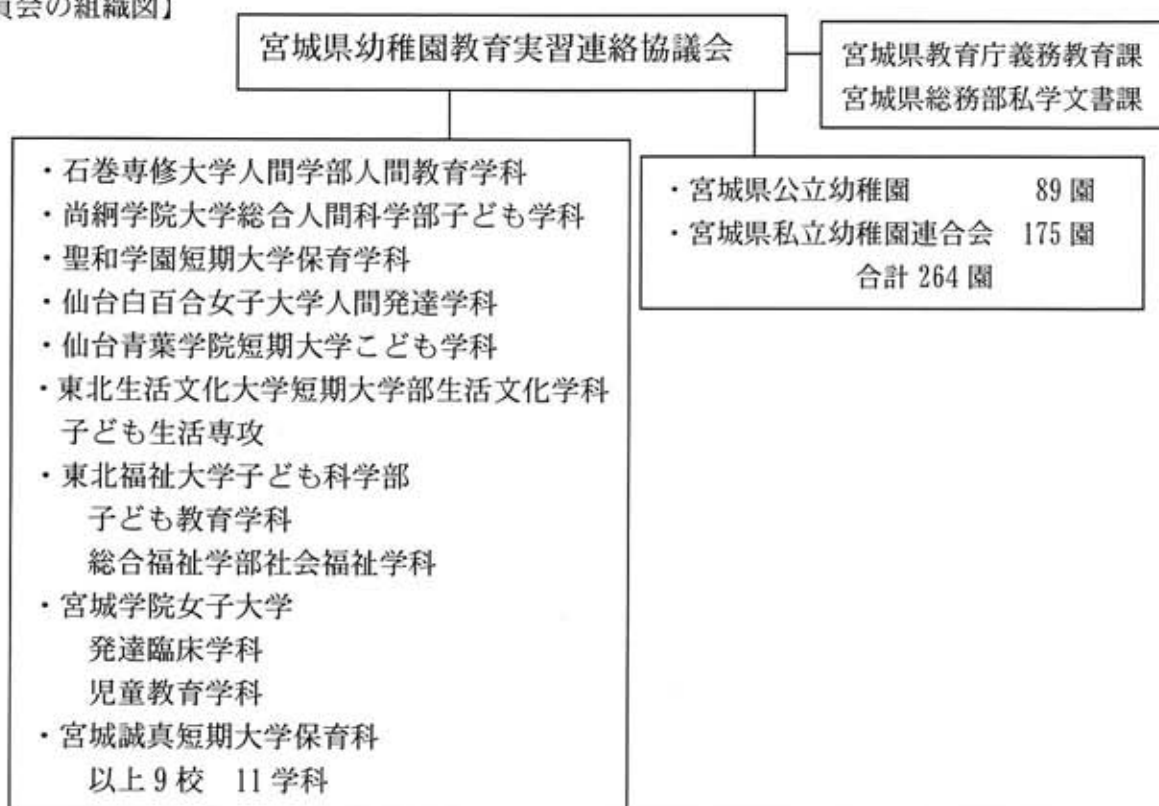
- ・ 委員会等の運営方法

・ 宮城県内の教育実習の円滑な配置や、実施内容、評価等に関する実習幼稚園との連携を図る為、年2回5月と12月に準備会を開催年1回宮城県下の公立、私立幼稚園との「教育実

習反省会ならびに教育実習打ち合わせ会」を行っている。この企画・運営の為、年2回5月と12月に準備会を開催する。この会議には宮城県教育庁義務教育課課長、宮城県総務部私学文書課課長も臨席している。

- ・「教育実習の手引き」、「教育実習日誌」、「教育実習評価表」、「教育実習学生調書」を協議検討して作成し、加盟校で共通のものを使用している。
- ・上記幼稚園教員養成校9校が1年ごとに当番校を担当し、「教育実習反省会ならびに教育実習打ち合わせ会」と「準備会」等の企画、準備を行う。

【委員会の組織図】



4 教育実習の受講資格

1. 教育実習Ⅰ（観察実習、部分実習）、教育実習Ⅱ（予備実習）を終了していること。
2. 原則として1年次必修科目（以下に掲げる科目）を修得していること。

＜幼稚園二種免許取得のための必修科目＞

- ・「英語コミュニケーション」2単位 1年次前期開設 必修科目
- ・「情報処理演習Ⅰ」1単位 1年次前期開設 必修科目
- ・「情報処理演習Ⅱ」1単位 1年次後期開設 必修科目
- ・「音楽」2単位 1年次通年開設 必修科目
- ・「図画工作Ⅰ」1単位 1年次前期開設 必修科目
- ・「図画工作Ⅱ」1単位 1年次後期開設 必修科目
- ・「幼児体育Ⅰ」1単位 1年次前期開設 必修科目
- ・「幼児体育Ⅱ」1単位 1年次後期開設 必修科目
- ・「保育者論」2単位 1年次前期開設 必修科目
- ・「保育学講座」1単位 1年次後期開設 必修科目

- ・「教育原理」2単位 1年次前期開設 必修科目
- ・「保育の心理学Ⅰ」2単位 1年次前期開設 必修科目
- ・「保育内容総論」1単位 1年次後期開設 必修科目
- ・「健康（領域「健康」指導法）」1単位 1年次前期開設 必修科目
- ・「人間関係（領域「人間関係」指導法）」1単位 1年次後期開設 必修科目
- ・「環境（領域「環境」指導法）」1単位 1年次通年（隔週）開設 必修科目
- ・「言葉（領域「言葉」指導法）」1単位 1年次前期開設 必修科目
- ・「音楽表現（領域「表現A」指導法）」1単位 1年次通年（隔週）開設 必修科目
- ・「造形表現（領域「表現B」指導法）」1単位 1年次後期開設 必修科目
- ・「保育指導法」2単位 1年次前期開設 必修科目
- ・「保育課程論」2単位 1年次後期開設 必修科目
- ・「乳児保育」2単位 1年次前期開設 必修科目
- ・「教育方法」1単位 1年次後期開設 必修科目
- ・「教育相談」2単位 1年次後期開設 必修科目

様式第6号（教職に関する科目（特別支援教育に関する科目）の履修体制に関する書類）

1 自大学で開設する教職に関する科目の履修体制

①教職に関する科目の 開設学部・学科等（所在地）	②履修学生の所属学部 ・学科等（所在地）	③②の学部・学科等 における免許状の種類	④②の学科 等の入学定 員	⑤①の学科等におけ る教職に関する科目 の担当教員数	⑥⑤の教員数にお ける専任教員数
保育学科 (宮城県仙台市泉区 南中山5丁目5番2号)	保育学科 (宮城県仙台市泉区 南中山5丁目5番2号)	幼二種免	90人	12人	5人
小 計			90人	12人	5人

様式第7号（認定を受けようとする課程において使用する施設・設備等に関する書類）

1 施設・設備の概要

①認定を受けようとする学部・学科等	②①の学部・学科等における免許状の種類	③①の学部・学科等において使用する施設・設備	④備考
保育学科	幼二種免	講義室 演習室 保育実習室 小児保健実習室 心理学実験室 音楽室(グランドピアノ1+電子ピアノ35台含む) ピアノ個人練習室(アップライトピアノ各1台設置) ピアノレッスン室(アップライトピアノ各2台設置) 合奏室(グランドピアノ1台含む) 図画工作実習室 保育自習室 情報処理室 パソコン自習室 視聴覚室 作法室 図書室 体育館 室内プール(25m×6コース) グラウンド	7室 3室 1室 1室 1室 1室 24室 8室 1室 1室 1室 2室 2室 1室 1室 1室 1 1 1

2 図書等の状況

①認定を受けようとする学部・学科等	②①の学部・学科等における免許状の種類	③②の教職課程に関する図書の種類	④冊数
保育学科	幼二種免	教科に関する科目 教職に関する科目	1639冊 3367冊
合計			5006冊

3 教職に関連のある施設・設備、役割など

進路室・進路相談室・教務課等で教職関連の指導・相談等を行っている。

(1) 大学・学科の設置理念

①大学

少子高齢化の流れの中で、地域社会の機能の低下が子どもの育ちに大きな影響を及ぼしている。子どもを取り巻く社会状況の変化に伴い、保護者のニーズは多様化しており、このような背景から従来にも増して幅広い知識と高い実践力を持つ幼稚園教諭の養成が求められている。

本学の建学の精神は、仏教の教えに基づく教育であり、具体的には自他を大切に、慈しむ「慈悲」の心、支えあい協力し合う「和」の心を身につけ「智慧」を学ぶ人間教育を通して、地域社会に貢献する有能な人材を育てることを教育理念としている。

また、勤行や仏教行事を通して、全学生、全教職員が建学の精神について理解を深め、共有化を図っている。さらに、必修科目「人間と仏教」、「聖和総合教育」で、仏教文化の理解と仏教の精神に学びながら社会に貢献していく生き方などを学んでいる。この建学の精神に基づく人間教育こそ現代社会において重要であるとの使命感をもって教育にあたっている。

聖和学園短期大学における幼稚園教諭の養成は昭和38年保育科35名の発足から始まり、その後平成2年に入学定員を50名として行われてきた。平成9年には保母養成課程（50名）が指定認可され、平成15年に入学定員を80名に変更した。さらに平成19年、時代の要請に応える質の高い専門職養成を目指し改組転換し、新たに介護福祉専攻を併設した保育福祉学科の中の保育専攻と名称変更し、教養教育と専門教育のバランスのとれた2年間の育成を通して幼稚園教諭養成を行ってきた。

②学科等（既に教職課程を有している学科等及び認定を受けようとする学科等のみ）

保育学科は、本学の建学の精神である仏教の教えに基づき教育を行う。具体的には自他を大切に、慈しむ「慈悲」の心、支えあい協力し合う「和」の心を身につけ「智慧」を学ぶ人間教育を通して、地域社会に貢献する有能な保育者を育てることを教育理念とする。

また、保育学科は本学の教育理念に基づく円満な人格を育成し、保育に携わる者としてふさわしい専門性や資質を備えた幼稚園教諭を養成することを目的とする。「心・知識・技能」のバランスのとれた幼稚園教諭を養成するために重要なのは、豊かな人間性の獲得と幅広い教養に支えられた専門性である。本学は半世紀を超す保育者養成において、人格形成上重要な幼児期に関する幼稚園教諭としての自覚を持ち、幼稚園教諭としてふさわしい態度や資質の向上を図ることのできる人材の育成に取り組んできた。近年、少子・高齢化に伴う子育て環境の変化に対応する専門的理論や知識を身に付け、さらに転換期を迎えるわが国の保育行政に対応する多様な知識と専門技術を実践する力を身につけた幼稚園教諭の養成が喫緊の課題となっている。保育学科では、具体的な幼児の姿やそれを取り巻く環境、並びに保育のあり方等について広い視野で理解し正しく判断する知性を養い、幼児の主体的な活動を援助するために必要な幅広い確かな基礎技術と、指導力を培うと共に、自ら教育を創造していく逞しい行動力を養うことのできる幼稚園教諭の養成を目的とする。

(2) 教員養成に対する理念・構想

①大学

聖和学園短期大学では、専門教育課程による実務能力を身につけた幼稚園教諭の育成に努めるだ

けでなく、その根底となる全人的な人格形成と情操教育が重要であるという教育理念から、勤行、仏教行事を教育課程の編成においても重視している。勤行は、1年生の必修科目「人間と仏教」の時間に読経や座禅を行っている。保育学科においても建学の精神に基づく人間性を身につけ教育目的・目標達成のため、特色教育や段階を踏んだ各種実習が体系的に整備される等、実践力のある幼稚園教諭育成のための教育課程の編成に努めている。本学は学則に卒業要件、学位の認定、単位認定等を定めており、学位授与にあたっては、保育学科の学位授与の方針に対応した教育課程が編成され、学習成果の査定を通して絶えず実効性を検証しながら確実に行われている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

ア. 保育学科として養成する教員像

保育学科が養成する人材は以下の通りである。

- ・ 人格形成上重要な幼児期に関する幼稚園教諭としての自覚をもち、豊かな人間性と感性を身につけ幼稚園教諭としてふさわしい態度や資質を身につけている。
- ・ 幼児保育に関する専門的知識を習得し、幼児やそれを取り巻く環境を理解し、幼児教育のこれからを見据えながら、誠実に実践できる力を身につけている。
- ・ 幼児の主体的な活動を援助するために必要な確かな基礎技術を身につけ、自ら教育を創造していく力を備えている。
- ・ 2年間にわたる「講義」「演習」「実習」での学びや、実習中に興味関心を持った事例についての研究を通して、幼児教育の「心・知識・技術」を総合的に発揮できる力を有し、さらには自らの課題を追究し、将来にわたり学び続けるための基礎となる力を獲得している。

イ. 教員養成の構想と特色

保育学科の教員養成の構想は、2年間という短期の修業年限で人間の尊厳と権利の尊重に基づいた豊かな人間性を涵養し、専門知識と実践力に富む質の高い幼稚園教諭を養成することである。大学教育における課題として、目的意識の希薄化と学習意欲の低下が指摘される中、保育学科は2年間という短期の教育課程を活かし、目的意識を持って学修に取り組み、幼稚園教諭に対する強い情熱を持った学生を養成する。また、幼児期は、子どもが生涯にわたる人間形成の基礎を培う極めて重要な時期であり、幼稚園教諭の養成において人格の育成はその基盤となる。保育学科では、豊かな人間性と感性、表現力を身につけた幼稚園教諭を、教養教育と保育学科の特色教育、地域貢献活動、ボランティア活動によって育成する。

特色の一つとして、建学の精神に基づき行われている総合的な人間力の育成がある。仏教文化の理解と仏教の精神に学びながら、人間の尊厳や権利を尊重し、社会に貢献していく生き方などを学ぶことで、幼稚園教諭としての人格の基礎を育むことを目的とする。

また本学科は、特色である実習を核とする教育を展開する。2年間という短期の修業年限で、幼稚園教諭としての資質能力を獲得するために独自の実習を配置している。1年次に基礎となる知識や技術の学修と併せて、9月から2月の間に幼稚園での観察実習・部分実習、障害児通所施設・入所施設・特別支援学校の見学を行う。1年次から段階を踏んだ実習を行うことで、順を追って知識と実践を統合し、学修の点検や課題の設定が可能となる。2年次前期には幼稚園での予備実習に続いて教育実習を行い、後期は総合力を養うとともに、学習のまとめを行う「総合演習」、「保育・教職実践演

習（幼稚園）」を配置する。「総合演習」は幼稚園児を招いて行われる「交流会」を中心とした科目であり、2年間の保育実践の集大成として、指導案の作成やロールプレイング等をもとに実際の保育を行う特色ある授業科目の一つである。

少人数教育ときめ細かな学生支援も特色の一つである。短期の修業年限で専門知識の修得と実践による学びの統合を効果的に循環させるよう、保育学科では、少人数教育のシステムの確立・充実を図る。「ピアノⅠ・Ⅱ」は学生の進度に合わせたきめ細かな授業展開を目指し、一人20分の個人レッスンを実施する。近年、入学生においてピアノに触れたことのない初心者の割合が高くなってきており、学生一人ひとりに合わせた指導により教育効果の高い授業を目指す。「講義」・「演習」・「実技・実習」は、授業形態によりA・B組（45人前後）、1・2・3組（30名前後）で実施され、また、各専任教員に1学年11～12名の学生を配置したグループ指導を行うことで、きめ細かな指導体制を整備している。

実効性のある少人数教育を支えるのが、専任教員全員による協働である。専任教員全員が全体指導を踏まえた上で、少人数グループに分かれた学生を指導している。専門領域の異なる教員が学科の教育理念と教員養成の方向性を具体的に共有することで、一貫性のあるきめ細かな取り組みを可能にしている。特に実習科目と「保育内容A・B・C」、「保育学講座」、「保育・教職実践演習」等の授業科目の他、教職指導や学生生活全般にわたり教員全員による養成が行われている。少人数教育の実践における質の担保には、専任教員全員の共通理解が必要不可欠であり、教員のチームワークが何より重要である。これは、学生の人的成長が専門教育の基盤となる教育課程において欠かせない人的環境となっている。

さらに、1・2年の交流を通して学びを深化させるシステムを活用して教育の質的向上を図る。保育学科では、4月に実施する1・2年交流会、チャイルドアイランド、学外研修、実習報告会、交流会、さらにオープンキャンパスの活動など、入学時から2年生と交流する機会を設けている。2年生との交流を通して、先輩の持つ技術や知識、幼稚園教諭としての言葉づかいや立ち振る舞いなどをモデリングし、自分のものとして獲得する。1年後の自分をイメージすることで1年生の学習意欲を高め、1年前の自分を振り返ることで2年生の自己効力感を高めることができる。

「気付き」のある幼稚園教諭の養成も特色の一つである。保育学科では、保育実践に欠かすことのできない「気付き」を持った幼稚園教諭を養成する。保育の質に関する研究において、幼稚園教諭の直感的な確信の重要性が指摘されている。直感的確信を持った教育に必要な「気付き」は、多様な体験をすることで始めて実感を持って問題を見出し、解決の糸口を模索するプロセスの中で育まれる。保育学科では、「気付き」を深め育むために、問題が見えてくる体験とそこで育まれる意識が問題意識を強化するという前提のもとで養成に取り組んでいる。教養教育をベースとして、専門教育科目では保育学科の特色教育である「保育内容A・B・C」や「保育学講座」、「総合演習」等の体験的学習を行い、教職課程外の地域貢献活動やボランティア活動を通して、「気付き」のある幼稚園教諭の養成を行っている。

教職指導が専任教員全員によって、組織的、計画的に実施されていることも特色の一つである。学生生活、科目の履修状況、学生指導にあたっては学年担任をおき、ゼミ担当教員等専任教員全員で取り組んでいる。出席状況が気になる学生については、会議で取り上げる等の情報交換を行い、学生相談等、支援をきめ細かく実施している。教職指導は、1年次から段階的に実施し、2年次には時間割に組み込んで定期的に行っている。教職指導においても、一人ひとりを大切にしたい関わり

が基本である。日頃から学生、教員ともに何でも話せる人間関係づくりに努めているため学生に何らかの変化があれば早期に対応が可能であり、特に家庭との連携においては、三者面談の実施や協和会（保護者会）での教員との交流、教職指導、学生生活に関する情報提供などを通して、保護者への意識付けと見通しを持った連携ができるよう力を入れていく。また、教育の質を確保するために、履修カルテを2年間で4回実施し、学習成果の把握と学生自身が学びの点検を行えるようにする。また、教職課程の質の担保を図るため非常勤教員との連携を重視している。非常勤教員と意志疎通を図る方法の一つとして、担当者会を年2回8月と2月に開催している。幼児教育の現状や学生の就職状況等の課題について情報交換し、教育目標、幼稚園教諭養成のあり方、学習成果等について共通理解を図っていく。また、保育学科では科目間連携による授業改善に力を入れている。特に指導案作成の能力向上に向けて教養科目と専門科目の連携、各専門領域間の協働が行われており、切れ目のない指導体制の構築に向けて取り組みを続ける。

時代のニーズに応えるより実践的な教育課程の編成も特色の一つである。教養教育では、国際化が進む保育現場において、様々な文化圏に対応できる語学能力の育成を図り、英語教育に対応できる幼稚園教諭養成を行っている。特色ある科目として、アジア、ヨーロッパの保育を現地で学ぶ「海外文化研修」がある。諸外国の保育の現状を学ぶことで異文化理解を促進し、外国語によるコミュニケーション力を育成し、保育現場のグローバル化に対応する幼稚園教諭の養成を目指す。さらに、集団保育の場における幼稚園教諭の役割の変化や、保護者支援の実際などを、現場の幼稚園教諭の講話を通して学ぶことで、幼児教育の現状を理解できるよう取り組んでおり、現場のニーズに対応した実践感覚を身につけた幼稚園教諭を養成する。

また、「保育内容A・B・C」ではチームティーチングを活用したアクティブラーニングを実施しており、学生の能動的な学修を促すために学生参加型の双方向授業に積極的に取り組んでいる。保育内容5領域の総合性を体験的に学ぶ「保育内容A・B・C」の3科目は専任教員全員によるチームティーチングで行う特色教育である。保育内容5領域の科目を分断された知識としてではなく、学生自ら「遊び」を通して体験的に学ぶことで、保育内容の総合化を理解する。そのほか、様々な分野の講師を国内外から招き、幅広く最新の知見に触れる講演や、芸術、音楽等に触れる「保育学講座」、幼稚園児を招いて1日保育を実践する「総合演習」は、本学が幼稚園教諭養成において大切にしてきた豊かな人間性を育み、「気付き」のある幼稚園教諭を学生参加型・体験的な教育で育む特色教育である。また、学外研修を年1回実施し、学外で様々な文化、芸術に触れることで体験に裏付けられた情操教育の促進を図っている。これら全ての受講・参加後は、レポートの提出を課し、気づきを言語化する繰り返しの教育を行うことで、論理的な文章力の育成に取り組んでいく。

また、地域に根差した幼稚園教諭の養成も特色の一つである。授業科目において地域の幼稚園、市民センターなどの要請に応じて、学生自らが企画、実践する中で、体験を通して地域社会の理解を深める。教職課程以外でも1年次から「ハンドベル」や「すずめ踊り」、「子育て支援カレッジ「てとて」」などの地域貢献活動を行い、積極的に地域の小学校・特別支援学校や幼稚園でボランティア活動を行うことで人間性の涵養を図っていく。

幼稚園教諭は生涯発達し続ける専門職である。そのため、保育学科ではリカレント教育に力を注ぐ。特に、子ども・子育て支援の新制度が施行されるにあたって、幼稚園教育要領に加え、新たに教育・保育要領の知識が必要となるなど、施策の変化に対応するために必要不可欠な知識や課題を提供する役割がさらに重要となっている。卒業後に実施する「卒業生の会」、学園祭に合わせて実

施する「ホーム・カミング・デー」で、様々な講演を行い学び続ける姿勢を支援する。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごと）

聖和学園短期大学はこれまで保育福祉学科のもと、保育専攻、介護福祉専攻において、それぞれ専門職の養成に取り組んできた。平成28年4月より介護福祉専攻をキャリア開発総合学科に組み入れる改組転換を計ることに伴い、保育専攻は保育学科として独立し、教育をさらに充実させ、地域社会が必要とする幼稚園教諭を養成し期待に応えていくこととした。（設置に係る事前相談の結果、両学科共に「届出」による設置可となった。）

わが国における子どもを取り巻く環境は大きく変化しており、保育行政も平成27年4月施行予定の「子ども・子育て関連3法」にみられるように大きく変化している。新制度の施行に伴い、従来学んできた保育所保育指針、幼稚園教育要領に加え、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に関する学びが加わるなど、幼稚園教諭を目指す学生の学習内容は質的・量的に変化している。さらに幼稚園教諭に期待される役割は、地域子ども・子育て支援事業など、地域における子育て支援サービスに関する意義や目的、内容等の理解も要求されている。このような施策の展開の中、待機児童の増加に歯止めが利かない状況や保育における多様なニーズは、幼稚園教諭の不足に拍車をかけ、要請される専門性も多岐にわたりより高度になっている。

保育学科は、2年間という短期の修業年限で、仏教の教えに基づき、人間の尊厳と権利の尊重に基づいた豊かな人間性を涵養し、地域に貢献する専門知識と実践力に富む質の高い幼稚園教諭の養成を設置の趣旨とする。本学は、平成19年より保育福祉学科において、低廉な学費負担で教養教育と専門教育のバランスのとれた教育課程において幼稚園教諭の養成を行ってきた。これまでの募集状況をみると、宮城県はもとより東北6県から多くの志願者があり、過去5年の入学志願者数は入学定員の2倍、3倍にのぼっている。また、子ども・子育て関連3法の成立により、認定こども園法が改正され「幼保連携型認定こども園」の設立が急速に進むことが予想される。短期大学で幼稚園教諭2種免許状と保育士資格を取得できる本学科は、新たな幼児教育に対応できる教育課程を特色としており、宮城県内において養成校の4大化が進む中、2年間で教養教育と専門教育を学ぶことのできる現場に近い高等教育機関として、職業意識の高い学生を養成する。

また、前身である保育専攻における就職率は10年連続で100%となっており、求人数は年々増加している。同専攻における幼稚園教諭2種免許状の取得率は平成26年度も100%であり、100%の学生が保育専門職として就職している。こうした実績は、専任教員全員で取り組むきめ細かな履修指導から就職指導までの一貫した取り組みによるものであり、地元へ就職する割合が高いことも地域における活発なボランティア活動等、地域に根差した教育によるものと思われる。保育学科は、地域に根ざした2年間という短期の教育課程で、目的意識を持って学修に取り組み幼稚園教諭に対する強い情熱を持った学生の養成を行っていく。

様式第 8 号イ（教育課程の運営に関する組織及び取組）

Ⅰ. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

組織名称： 保育学科（教員組織）
目的： 保育学科では、豊かな人間性と感性、表現力を身につけた幼稚園教諭を、教養教育と保育学科の特色教育、地域貢献活動によって育成するため、学科において授業科目の履修達成に向けた組織的な取り組みを行っている。建学の精神に基づく人間性を身につけ教育目的・目標達成のため、特色教育や段階を踏んだ各種実習が体系的に整備される等、実践力のある幼稚園教諭育成のための教育課程の編成がなされており、学則に基づく卒業要件、学位の認定、単位認定等を定期的な会議の中で点検している。また保育学科では、学習成果の査定を通してより実効性の高い教育課程の編成がなされるよう定期的に検証を行っている。
責任者： 学科長
職員(職・人)： 学科長（教授）、主任（准教授）、教授 4 名、准教授 2 名、講師 1 名
運営方法： 原則月一回定例会議を開催し、必要に応じて臨時会議を開催している。学科長が司会を務め、多様な専門領域の教員が、実習の計画と学生の配置、事前事後指導計画等、協議検討を重ね教育課程の運営に携わることで、カリキュラムの点検及び編成の作業が行なわれる。また、学年担任、グループ指導担当教員が学生の履修状況について報告を行う。併せて授業科目担当教員としても、受講態度、課題の提出状況、学習理解度、遅刻・欠席状況等を報告し、専任教員が情報を共有することで、一人一人の学生に合わせたきめ細かな支援を行っている。これにより、学生の履修上の課題を早期に発見し、保護者との情報交換も含めたきめ細かな支援が可能となっている。また、保育学科における会議の内容を事務部（教務課）と情報交換することで、履修達成に向けて連携した取り組みを行っている。非常勤講師とは年二回実施する担当者会で情報交換等の連携を図っており、学生の履修状況について随時担任と連絡を取り合っている。相互に関連し合う科目の連携を活発に行うための場となっており、教育研究を行い養成に還元する取り組みを行っている。このような組織的取り組みによって、より実践的で体系的な教育課程を編成している。

②

組織名称： 教務部（教職員組織）
目的： 教務部は教職員による構成組織であり、教職課程の授業科目の履修達成に向けて責任を果たしている。カリキュラムの点検と編成、教育課程および教務事務全般について協議・検討・点検を行い、学生の授業履修達成の支援を全学的に行うことを目的としている。
責任者： 教務部長
職員(職・人)： 部長、副部長 2 名、主任 3 名、教務部構成員 12 名
運営方法： 原則月一回定例会議を開催し、必要に応じて臨時会議を開催している。教務課のみならず、学生課、総務課を含む事務部全体で情報交換を行うことで、授業の履修状

況、出席状況、成績に併せて奨学金等の学生生活全般を把握し、全学的な支援を行っている。多様な専門領域の教員が協議、検討を重ね教育課程の運営に携わることで、カリキュラムの点検及び編成の作業が俯瞰的に行なわれる。また、事務部における会議の内容を保育学科と情報交換し、履修達成に向けて連携した取り組みを行っている。

③

組織名称： 事務部教務課(事務組織)

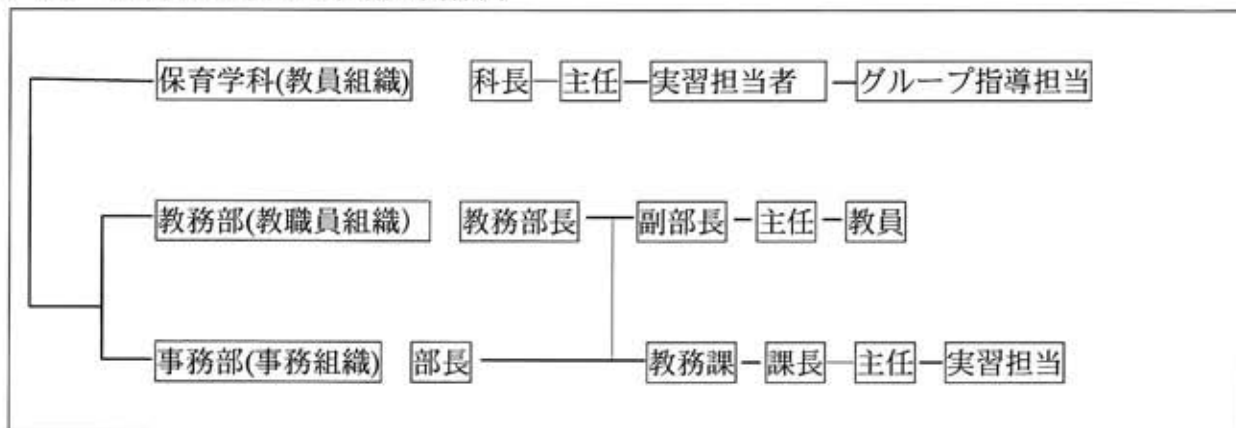
目的： 事務職員は教職課程の授業科目の履修達成に向けて責任を果たしている。実習担当者は、実習関係の事務手続きや資格取得に関する事務手続きを行う。教務事務全般を担当する教務課職員は、時間割の作成および専任教員が入力した学生の授業履修状況や出席状況、成績データを適切に管理する。非常勤教員の担当科目分は教務課員が入力することで教務課職員がデータを共有できる体制としている。これにより、学生個人個人の履修状況に関する内容を把握しており、教育目標の達成や卒業に必要な単位の取得に関するアドバイス、相談を適切に行う。

責任者： 事務部長

職員(職・員)： 部長、課長、主任、教務課構成員3名

運営方法： 原則月一回定例会議を開催し、必要に応じて臨時会議を開催している。教務課のみならず、学生課、総務課を含む事務部全体で情報交換を行うことで、授業の履修状況、出席状況、成績に併せて奨学金等の学生生活全般を把握し、全学的な支援を行っている。また、事務部における会議の内容を保育学科と情報交換することで、履修達成に向けて連携した取り組みを行っている。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

・宮城県光明支援学校評議員の派遣

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

①

取組名称：	仙台市立南中山小学校発育測定サポーター
連携先の連携方法：	年度当初に小学校の担当教諭と保育学科ボランティア担当教員が打ち合わせを行う。
具体的な内容：	毎年6月に実施される発育測定の補助を行う。

取組名称：	仙台市立南中山小学校宿泊会サポーター
連携先の連携方法：	年度当初に小学校の担当教諭と保育学科ボランティア担当教員が打ち合わせを行う。
具体的な内容：	毎年8月に実施される宿泊会の補助を行う。

取組名称：	宮城県立光明支援学校ボランティア
連携先の連携方法：	年度当初に担当教諭から保育学科ボランティア担当教員に依頼があり、打ち合わせを行う。
具体的な内容：	運動会・光明祭り（学園祭）・学芸会の補助を行う。

III. 教職指導の状況

教職指導は専任教員全員によって、組織的、計画的に実施されている。教職課程の履修指導については、入学後の一泊オリエンテーション時に「学生生活ガイドブック」「シラバス」に加え、「オリエンテーション資料」を用い実施する。学生が能動的に学修に取り組めるよう、保育学科の教育理念やカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを説明し、履修系統図やカリキュラムマップをもとにきめ細かく説明を行うことで2年間の教育課程が理解できるよう徹底を図っている。また、実際に全員で時間割を組み、履修登録表を作成することで、教職課程全体を俯瞰し理解することが可能となる。

教職指導、学生指導にあたっては学年担任をおき、ゼミ担当教員等専任教員全員で取り組んでいる。出席状況が気になる学生については、会議で取り上げる等の情報交換を行い、学生相談等、支援をきめ細かく実施している。教職指導は、1年次から段階的に実施し、2年次には「進路ガイダンス」を時間割に組み込んで定期的実施している。幼稚園教諭の魅力や、現場で働く卒業生の話を通して幼稚園教諭について学ぶ。教職指導においても、一人ひとりを大切にしたい関わりが基本であり、自己の適性について等個別の関わりを大切にしている。日頃から学生、教員ともに何でも話せる人間関係づくりに努めているため学生に何らかの変化があれば早期に対応が可能であり、特に家庭との連携においては、三者面談の実施や協和会（保護者会）での教員との交流、教職指導、学生生活に関する情報提供などを通して、保護者への意識付けと見通しを持った連携ができるよう力を入れていく。

＜保育学科＞（認定課程：幼二種免）

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	保育学科では、専門教育課程による実務能力を身につけるだけでなく、その根底となる全人的な人格形成と情操教育を重視している。そのため、1年次必修科目である「聖和総合教育」を通して建学の精神に基づく豊かな人間性と感性を身につける。また、専門教育科目のベースとなる共通教育科目の学修を通して、社会人として必要とされる幅広い教養・論理的思考・文章力・情報リテラシーを身につける。さらに、基礎専門科目の学びを通して、教職の意義について理解し乳幼児期の発達段階を踏まえた幼児教育の在り方を理解する。幼児やそれを取り巻く環境を理解し、幼稚園教諭の職務に関する理解を深め、特別な支援を必要とする幼児について理解する。また、保育内容の学修を通して実践に必要とされる音楽・造形・体育等の基礎技術や教材研究について学ぶ。
	後期	1年次後期では、前期に引き続き基礎専門科目の学びを通して幼稚園教諭に求められる基礎知識と実践的な技能を身につける。また、保育学科の特徴である段階を踏んだ実習により、前期に学習した基礎専門科目の知識と実践の結合を図る。具体的には9月から2月の間の観察実習（幼稚園・保育所・児童発達支援センター）や、幼稚園での部分実習、特別支援学校や児童養護施設の見学を通して、幼稚園教育の目的を理解し、幼稚園の役割・機能を具体的に理解する。また、観察や子どもとの関わりを通して子どもの遊びと心身の発達について理解を深める。幼稚園で指導案の一部を実践し保育について学ぶ。さらに「実習報告会」、「交流会」等を通して、2年生をモデルとして観察し先輩の持つ技術や知識、保育者としての言葉づかいや立ち振る舞いなどを自分のものとして獲得する。
2年次	前期	2年前期は、教育実習・保育実習を通してそれまでの学びを総合的に体得する。1年次に行った段階を踏んだ実習を通して見出した課題に取り組み、学びを深める。事前指導を通して、専門職の倫理、社会人としてのマナー、記録の手法を改めて確認し、実習における課題を明確化する。実習を通して、教育、発達や保健等に関する基礎専門科目の知識、音楽・造形・体育等の基礎技術を実践的な学びを通して深化させる。実習終了後はグループで行う実習反省会を通して、実習の振り返りと省察を行い、学びの整理と新たな課題の明確化を行う。また、保育者としての資質等、自己覚知の作業に取り組む。さらに、後期に取り組む「保育実践研究集」の作成にむけて、実習のエピソードを整理し、研究テーマの設定を行う。
	後期	2年後期では、実習の学びをもとにより実践的な知識と技術の融合を図る。実習で体得した学びを「実習報告会」を通して整理する。また、1年生に向けて実習の学びを伝えることで自らの実習を振り返り、省察を通して新たな課題の整理を行う。2年後期は、これまで学修した講義・演習を系統立てて整理し、新たな理論の修得と実践力の積み上げを目指す。「総合演習」では、幼稚園児を招いての「交流会」を通して、2年間の学びの総まとめを行う。さらに、「保育・教職実践演習（幼稚園）」では、2年間の学修のまとめとして「保育実践研究集」を作成する。継続的に学び、研究する保育者の姿勢を身につけ、研究において基本となる手法を修得する。将来幼稚園教諭として円滑にスタートできるよう、現場の実情を学び、必要とされる知識・技術の点検を行う。

<保育学科>(認定課程: 幼二種免)

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		教職に関する科目			教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	1	A	保育者論	図画工作Ⅰ			
		2	A	教育原理	図画工作Ⅱ		英語コミュニケーション	
		2	B	保育の心理学Ⅰ	幼児体育Ⅰ		情報処理演習Ⅰ	
		3	B	健康				
		3	B	言葉				
		3	B	保育指導法				
	後期	3	A	保育内容総論	幼児体育Ⅱ		情報処理演習Ⅱ	
		3	B	人間関係				
		3	B	造形表現				
		3	B	保育課程論				
		3	D	教育方法				
		4	A B	教育相談				
	通年	3	B	環境	音楽			
3		B	音楽表現					
2年次	前期	5		教育実習Ⅱ			体育理論	
	後期	6		保育・教職実践演習	生活		暮らしの中の憲法	
					国語		健康スポーツ	
1・2年次	後期	1	B C	保育学講座				
	通年	5		教育実習Ⅰ				

授業科目名	担当者	授業形態	単位数	開講期				備考
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
1 保育原理	飯島典子	講義	2			○		
2 教育原理	佐藤哲也・井本桂宏	講義	2	○				幼教免(教職に関する)
3 児童家庭福祉	菅田賢治	講義	2		○			
4 社会福祉	加藤和子	講義	2			○		
5 相談援助	若島智子	演習	1				○	
6 社会的養護	菅田賢治	講義	2	○				
7 保育者論	中島恵・木村昭代	講義	2	○				幼教免(教職に関する)
8 保育の心理学Ⅰ	飯島典子	講義	2	○				幼教免(教職に関する)
9 保育の心理学Ⅱ	飯島典子	演習	1				○	
10 子どもの保健Ⅰ	木村昭代・加藤和子	講義	4	○	○			
11 子どもの保健Ⅱ	木村昭代・中島恵	演習	1			○	○	
12 子どもの食と栄養Ⅰ	岩田教子	演習	2	○				
13 子どもの食と栄養Ⅱ	梅津裕子	演習	1				○	
14 家庭支援論	佐藤由美子・小山里織	講義	2				○	
15 保育課程論	飯島典子・中島恵・宮本美和子	講義	2		○			幼教免(教職に関する)
16 保育内容総論	小野真喜子	演習	1		○			幼教免(教職に関する)
17 健康(領域「健康」指導法)	石森真由子	演習	1	○				幼教免(教職に関する)
18 人間関係(領域「人間関係」指導法)	加藤和子	演習	1		○			幼教免(教職に関する)
19 環境(領域「環境」指導法)	小野真喜子・飯島典子	演習	1	○	○			幼教免(教職に関する)
20 言葉(領域「言葉」指導法)	飯島典子	演習	1	○				幼教免(教職に関する)
21 音楽表現(領域「表現A」指導法)	松村万里子	演習	1	○	○			幼教免(教職に関する)
22 造形表現(領域「表現B」指導法)	伊藤純子	演習	1		○			幼教免(教職に関する)
23 乳児保育	中島恵	演習	2	○				
24 障害児保育	相馬潤子	演習	2	○	○			
25 社会的養護内容	佐藤光市	演習	1		○			
26 保育相談支援	加藤和子	演習	1				○	
27 保育内容A	専任教員	演習	2				○	
28 保育内容B	専任教員	演習	2				○	
29 保育内容C	専任教員	演習	2				○	2単位選択必修
30 保育指導法	小野真喜子・飯島典子	演習	2	○				幼教免(教職に関する)
31 児童文化	横田重俊	演習	1		○			
32 音楽	松村万里子・佐藤万利子	演習	2	○	○			幼教免(教科に関する)
33 ピアノⅠ	松村万里子・佐藤万利子 石郷阿安希子・菊地真知子・木島恵理子 佐久間葉子・仙石桂・当麻悦子 田中織江・田中美沙・宮城純一 米山博子・遠藤明子・石田仁美・寺澤純子	演習	1	○	○			
34 ピアノⅡ	松村万里子・佐藤万利子 石郷阿安希子・菊地真知子・木島恵理子 佐久間葉子・仙石桂・当麻悦子 田中織江・田中美沙・宮城純一 米山博子・遠藤明子・石田仁美・寺澤純子	演習	1			○	○	
35 音楽Ⅰ	松原優子	演習	1	○	○			
36 音楽Ⅱ	松原優子・佐久間葉子	演習	1			○	○	
37 器楽アンサンブルⅠ	星律子	演習	1			○		
38 器楽アンサンブルⅡ	木島由美子	演習	1				○	
39 図画工作Ⅰ	新妻悦子	演習	1	○				幼教免(教科に関する)
40 図画工作Ⅱ	伊藤純子	演習	1	○				幼教免(教科に関する)
41 図画工作Ⅲ	新妻悦子	演習	1				○	
42 幼児体育Ⅰ	石森真由子	演習	1	○				幼教免(教科に関する)
43 幼児体育Ⅱ	石森真由子	演習	1		○			幼教免(教科に関する)
44 幼児体育Ⅲ	柴田卓	演習	1				○	
45 保育実習Ⅰ	専任教員	実習	4	○	○	○	○	
46 保育実習指導Ⅰ	専任教員	演習	2	○	○	○	○	
47 保育実習Ⅱ	専任教員	実習	2			○	○	※から2単位選択必修
48 保育実習指導Ⅱ	専任教員	演習	1		○	○	○	※から1単位選択必修
49 保育実習Ⅲ	専任教員	実習	2			○	○	※から2単位選択必修
50 保育実習指導Ⅲ	専任教員	演習	1			○	○	※から1単位選択必修
51 保育・教職実践演習(幼稚園)	専任教員	演習	2				○	幼教免(教職に関する)
52 総合演習	専任教員	演習	1		○		○	
53 保育学講座	専任教員	講義	1		○		○	幼教免(教職に関する)
54 国語	関根俊二	講義	2				○	幼教免(教科に関する)
55 生活	加藤和子	講義	2				○	幼教免(教科に関する)
56 教育方法	佐藤哲也	講義	1		○			幼教免(教職に関する)
57 教育相談(幼児理解を含む)	佐藤純子	講義	2		○			幼教免(教職に関する)
58 教育実習Ⅰ	専任教員	実習	1	○	○	○	○	幼教免(教職に関する)
59 教育実習Ⅱ	専任教員	実習	4				○	幼教免(教職に関する)
共通教育科目	聖和総合教育	専任教員	演習	2	○	○		
	人間と仏教	鎌田文恵・鎌田清寛	講義	2		○		
	暮らしの中の憲法	米谷光正	講義	2			○	幼教免(66-6)
	英語コミュニケーション	川辺博	演習	2	○			幼教免(66-6)
	体育理論	金野麻衣	講義	1			○	幼教免(66-6)
	健康スポーツ	金野麻衣	実技	1			○	幼教免(66-6)
	情報処理演習Ⅰ	阿部よし江	演習	1	○			幼教免(66-6)
	情報処理演習Ⅱ	阿部よし江	演習	1		○		幼教免(66-6)